断片　二〇二三

u_

（にも尖り尽き…）

にも尖り尽き、尽き掠れるなら逸れ鈍る儘に曲がり傾いで重みの懸かるかに俯くしか無いその先を溶かそうと尖り暈ける、にも、な尖り暈けなどは窄む眩みの消え沈む姿を浮き逸るその影にでも擦（なす）り付けたようで、にはそんなそれを狂い無く尖らせ暈けさせる、濁り穢れた透けの底を抉り浄めるかに深ませる暗みを纏う、曲がり已まない重みの重みでは有り得なさに姿を擬え翳し驕って立ち塞がり隠り損なっては奥行きを計りようも無い、暈け異なり窮まる兆しを現す向こう向きかにも筋張って明るみ暗む窪まりなら窪まりの、何を映そうにも恐らくは僅か過ぎように隈無く曝け出され擦り切れ果てたかな一震えな捩れながらの消え現れに映る、透けに磨かれて自らの速さを艶に昇らせる丸み尖り偏って虚ろな淡みそれとも淡みの頽れ傾れる、窪まりからの分け隔てを窄まるなりに望み細まっては望む儘に見出す狭み浮かびは、その映りなだけの形（なり）に計られる奥行きを計られた奥の無さに放ち眩ませよう、な眩みの已み果て無さに、な無さに向きを奪われて滑り圧されそれとも唯何処へとも波打

ち漂うかな奥の無さに圧しは滑るばかりなら、丸く閉じる揺らぎ擬きな、で窪まりの立ち塞がりから離れられたろう、映りなだけの形（なり）に映る映りは映かな儘に何処へもその映りを映し移し延びて直ぐに延び尽きる兆しに隠り靡くかにも、な尽き様に凝り粘り添う、窄む眩みの消え沈む姿でしか無い無さの狭みの圧し迫りに一つ限りな向きを定め逸って向きを潰しそれとも、な向きは密かに淡く暈けた暗みへ開き平らぐばかりな渦を勢い付かせ奥めかせその何処までも解（ほぐ）されて行く渦に溶け滲み丸みに縋つて奥まるに違いない、乱れ窮まれば静まるしか無い、にしても乱れた痕も冷え切ったように無い、なら静まる徴一つも窪みたげにも無かろうか、とも凍るように静まり窮まるかに、な無さだけが乱れ窮まれずに無さの有りもしない柔らかい先を切り開き急ぐ振りを振り翳すなら翳すで翳し逸れ、かにも逸れられようも無い狭み至る限りに続き開かれる奥まりの、奥まりには円みに似せようと努めては固まり震えてよう硬そうな閉じた姿が懈そうに重なり、な様を一処から幾重にも渦を重ね回し脹らませ丸みさえ暈けた窪まりかに現し消す形（なり）は形（なり）なりに、奥まりな様に閉ざされながらもその奥まりを鮮やかに奥まり異ならせよう徴などさえ擦り出そう、それとも異ならせたい望みの微かさだけが奥まりの奥へとも流れ出ようかな澱を溜めて光りの燃え散るように吐き出したげな、な吐き出しただけを吐き出したかな冷たさの渦の重ね回しさえ凍り静まらせる乱れ窮

まりの消え映りなら消え映りが当て付けかに激しく沈み果てるように現れ流れ、にも流れ凍るようならその冷たさを掠める、円みが円みへの向きへ向き順おうとした向きの切れ端かな、にも何一つ切れようも無い無さは暈け広まって円みの向きは隠され尽くされよう、な形（なり）は形（なり）なだけなら縮み剥がれるしかない薄っぺらな形（なり）の上っ面と戯れる外へと逸れる逸れに馴染み強いられる向きの溶け暈けに惑わされる鈍く閉じ掛け流れる外への向きから逸れる為に震えようと透け濁り隠る震えなら震え、で無いなら外に背を向ける頑なさの震えられ無さの硬み、にしろそんなそれな儘に直ぐに消え現れ、現れる果て消える果てなら果ての一欠片の、外からさえ厭われ棄てられる自らの触れられない醜げな冷たさに自らを巻き取り絡み込ませ入り組ませる、にしろ、なれ事らを企む向きを向くだけな、果ての一欠片の欠け目を狂い無く眩ませる触れられる明るみを艶めかせる微かにも確かな傾きを映し逃がす奥まりの奥まりを溶かし延ばそうかに消え懸かる偏りなら偏りが、偏りな儘にさえ、な儘な形（なり）を厳しく蝕めば偏りで無くなる、眩みを貫き抜いて消え現れる明るみそれとも、な明るみを明るませてよう巧みな偽りの眩みとしか明るまない後ろ向きな円みの縁かな、な、かな、までも貫き抜ければ後ろ向き異なる円み、ではその円みをも円み異ならせようか、な果ての一欠片を欠いただけの果ての果て無さを、さもその現れ消えかに、な消え現れを自ら貫き抜いて已まない、な已ま

無さの迫り狭まる圧し爆ぜ弛み翳みの連なりそれともその連なら無さの裂き拡げ隠らせ翳し傾げる円み異なりを映し透かし濁らす、かにも、な透けも濁りも映せない、無さの果て無さを脅し翳すかに狭まり窄み圧し込められ窮まるなら窮まり逸れ、な逸れからも易易と逃れられる形（なり）を有り得なげに眩み悶え偽る暈け震えそれとも、な暈け震えの偽りを暴く明るみ異なりそれとも明るみ果て損ないの破れ目なら破れ目から覗く明るみを拒む暗みなら暗み、で無いなら唯明るみを拒んで拒み明るみ異なる、有ると知れるからに有りもしない円みの古びた一欠片に沿うかな、その一欠片擬きかに自ら暗みへと腐り果てたいかに回り始めようとする明るみを拒んで明るみ異なれない明るみ失せ、に失せ明るむ圧し爆ぜに匿われた明るみ異なりを暴き散らす、にも、な散らされに抗うばかりな弛み翳みの消えようも無く、な無さの窮まり無さの圧しを逸れ爆ぜ損なうなら真つ直ぐに穢れた円みそれとも穢れを厭う円み異なりを向き果て、な向き果ての眩みさえ逃れる薄みは見出されるしか無くに硬そうに失せ、失せる儘に顧みられようかに滑り失せ甦る甦りの、薄みから薄みの失せまでを硬く拒みながらも、な拒みとの向きを換え損ない惑うしか無いかな苦い惑いを酔いを厭うかに暈かし斥けようとするしか無くに、狭み断ち現れ向かい暗く迫る向きに圧され侵される儘にも、な侵されを丸ごと呑み込む振りを強いられ侵されの内の内へと刺刺しく散り失せる細かく刻まれる限りに刻まれ泥む明るみの失

せ窮まりに待ち望まれたかに映されよう立ち翳み強張る窪まりの窪まりの知らない外へと貫き拡がりたげな翳りに満ちたそれとも失われた翳りを失い直して際立たせたいかな、恐らくは遠過ぎるようならその埋め合わせに硬過ぎる円みへの向きを潰されるその向きの向き向かう、明るみの失せ窮まりの繰り返し失せ窮まって已まない已ま無さ限りに、な已ま無さが已ま無さの内を態と斜交いに抉りたいかに貫き果て消えようにも、な果て消えようにを裏返し懸け続ける撃つかな動きがその動きで動きを擦り切れさせずには措かないその動きに抗う暗みを映し切った光りなら光り、いや光りならほんの微かにも光りでは無い、な光りで無いなら光りで無さにさも厚く滲み溶ける眩みなら眩みの立ち昇りが力尽くで呼び寄せよう動かしようの無い厚みの頽れそれとも硬み、それとも厚み頽れなら必ず硬みでも有る何処もがほんの僅かずつ隠無く痛痛しく切り刻まれたような丸みを帯びさせられた平らにばかり延び約まる何も映せなくては均しく重く透け濁るばかりな、さも幾つかの触れられる淡い影の厚みが接ぎ合わされて剥がれつつ約まり纏まる一つに繋がる艶を晴れやかに翳す触れられる為に脹れ延び断たれ舞い沈み傾ぎ捩れ回る、にも、な捩れ回りをぎこちなく円みを偽るかに清かに尖らせて穢れの薫りを振り撤き凍らせ丸まらせ溶かしに懸かろう、その兆しに、唯その振り撤きの軽みで浮くような、それともその同じ軽みで浮きようも無かろうな、にも、な滑り刻まれるかにふらくつ軽みがその儘

に軽み自らの淡く翳む傷痕とその傷痕を映し暈かす光りで無さの窄み尖り已まないまりを剥いで、その剥ぎ痕に裏返りながら伸びやかさを装い躊躇って甦る軽みの内の脹らみの裏の厚みと尖り捩れる、な儘な捩れか怪しい裏返りの薄みの苦しげな限りに朗らかな交わりを潜ませよう一塊に象られ損ない、な象られ損ないの裂け目も切れ目も見せない一繋がりの隅から隅を繰り返しそれとも繰り返しようも無く辿り続けて剥がされ失せた奥まりへ流れ向かうそれとも、な流れ向かいを弛く阻まれる儘に脹れ逸り痩せ留まって軽みの影の染みを準え逸って細まる細まり独りは独りな限りに独りを欺き、その上辺の透け濁りの均しさだけに拋って拭い去れない潰れたような象られ損ないを匿い逸り逸れ、にも、な急くばかりな逸れに継がれる透け濁りの均しさは崩さずに、にも崩し濁って透けの均しさに濁りを潜み込ませ、な透け濁りの濁り透けに光りなら光りで無い無さを均しく映そう、それとも映し損なう損ないの奥知れなげ振る暗みの細まりの絶えた先に細まりへの擬えを促す、にも絶えた細まりは自らを拒むより早く細まりの脹れるその絶え様を擦り曲げるそうと、その溢れる向きの細みを吸い寄せる暗みの窄まりを確かに拒み逸れる振りで却ってその窄まりの内に暗みを避けて潜む明るげにも暈け暗む儘の平らかさを掬い取ろうとそれに掬い取られ、それとも掬い取れも取られも為らなくての平らかさかも知れなくにも平らか異なりようも無くての掬われる儘かに苦しげに偏り至る向きへの放た

れなてらかさ、それとも、な平らかさに透ける狂い無く濁りから外れて改めて濁り透け貫かれる眩みの恐らくは消え果てがしし接ぐ向きを淡く棄て留める向きの痕の虚ろが虚ろの虚ろに贋な陰などを楽しげに探して濁り透けを失う微かな震えの窪み流れ淀む裏を覗かせるなえの昇り暈け細まる、輪に閉じ晒すかな後ろ姿の影を残そう伸びやかさの消え去りにしろ去り現れを薄くずらし重ねての平らかさ、を、そんなそれをそれとは異ならせる、窄まりを逆さに僅かに傾け、さも危うげな直ぐ先の遠くの冷え暗みに触れたいかに立て翳し翳ませ、危うげを擦り替え断った虚ろを隙なく重く圧し詰め平らかさを弛い限りになだらかに拒み拡げて捻り偏る細みの衝き上がりし震えめく乱れが色めかせるえ古びた丸みを帯びるしか無くに傾き流れる重みの向きを越え急ぎたいかな震りの乱れを色めかせてよう光りを舐めるかに沈まの跨ぎ損ねて丸みの裏の唯光いの失せ果てた虚ろの狭みを覗き捩れそれとも捩れ損なえば裏の裏の丸みの古い様しか無い平らかさ擬きな虚ろを圧し詰め満たしてその厚みにさえ触れられよう覗きの眩みなら眩みの眩みを眩み貫く向きに透けるばかりな光りを通す、向きを塞ぎ閉ざして透けの乱れを光りに変えては一筋の響きの流れのような震えなら震え、震えで無いなら透けの冷え冷えとした明るみそれとも温かみの掠れ騒ぐ透けへの狭い限りな静まり、を静まらせて静まりの果てを断つかに静まる、現れ続ける光りを相容れない外かにそれとも現れ続け異ならせて遠ざけ隔て内に

匿った虚ろを虚ろの贋振りまで潰し尽くしたなら小さく輝き纏まる円みさえ易易と水の濃やかで円やかな深みかに艶めき映せよう、虚ろを虚ろで満たせば透け濁りの予め整えられた一乱れの失せ尖り粘り現れ縮みかな、凝っと昇り閉じ向く向きを守り傷めては、な凝っとに一乱れを狂い無く重ね厚ませ裏で沈みながら跳ねるようにも艶を透かせ凝り固め転がす軽みな限りに重みなら重み、重みで無いなら遠い限りな重みの尽きる円みの消えいりなら消え去りの有り得なくてこそ追える大きさの果てを囲み潰す構えり圧去輝きの暗みへと色付き撒き散らされる虚ろの乱れかに翳され眩む薄い限のなし重みを突き抜けての重みより重い軽みを知らない軽み、な重みとも軽みとも異なるなら異なろう乱れの連なりを並べ拡げ輝かせ散り失せさせる、な様の裏に温かげに匿われて眩み尽きない、崩れ拡がり眩みの艶めきを掴み取りたいかに舞い途切れ重なり色付き厚みをずらし傾げるかな円みへの忘れられた衝き上がりに違いない、圧し詰められた虚ろに懐かしげに穢れた高みへ上り繋がる細みの乱れへの乱れを拒み乱れる向きを分け重ね尽きない、それとも尽き続けて重みを逸れては向きの分け重ねを練るかに重ね直させて静かさの騒がしさに沸き立つかに尖り丸まり滑りずれる、にも、な滑りずれの僅かさの連なるかな微かな震えの暗みの尖り擦れた荒さを頼りに、それとも荒さに乱れ頼られるかに分け重ねの触れられる重みで細みを匿い暴れさせ、に、にも乱れへの乱れを拒み乱れる向きの定まり懸ける

かな分け重ねの丸まり滑りを押さえに押さえ倦み、に震えるしか無さを艶を逃れる粘りの狂いに変えようと自ら潰れる振りで円みへの向きの振れを研ぎ動かそうと震え直しを常に企てる、それとも、な震えこそ真っ先に拒まなければ円みへの向きと逆さの仰向けにも頽れよう失せたそうな傾きへの兆しを恐れ重ね粘らせて重みへの虚ろな向きを映し潜ませよう二つ向き合う平らかさの、裏を向けられて丸まり切れる切れ目と切れ目の狭間の二つ向き揃い滑りずれる奥に拡がるかな、奥は無い奥とだけ奥まり知れるなら知れる儘にも、な奥が煌めかす艶めきの奥まりが艶めき自らを疵付けて艶めく艶めきの匿う奥まりへの向きの薫り立ち損なう損ないが分け開こう疵の姿をした暈けてその裂け目を連なられる明るみの消え現れの暗みと見誤られるしか無い偽りのそれとも偽りを偽る奥まりをそれに映し重ねて蠢く振りに蠢く艶なら一艶の眩みへの誘（いざな）いを揺らしめかし静め沈め、底の知れない深みの無さを誇らかに翳して無い深みへとだけ偏り眩んで眩みを疾っくに呑み尽くしたろうかにゆったりとも丸みを負う横揺れへの知れないとも知れない底しか覗けないなら浅い限りな望みを焦がれ匂わせる、にしろ、な匂わせを厭ってしか艶は持ち堪えられなかろう眩みをも貫きそうな重みに望みはさも惨めに抑えられ、にしても、な匂わせの僅かながらにも窄み失せる形（なり）の影を落とせる深みなら深みは深み損なうしか無くにも、な疵を抱える深みへの厭いを躱して深みの裏へと回り込む向き

を剥き晒し懸けようか、な構えの平らかな明らかさこそ狂い無く爆ぜ曝されれる障りで向きは悉く砕け失せ、にも、失せ果て切れずに厭わしげに砕け続ける、それとも、な砕け続けを透け抜けて失せ果ての一欠片かなそれ限りな色なら色の濃さを穢げに晒す脹らみ懸け影の暈け傾げを拭い落として穴の底を楽しげに暴いたかな浮き浮きと暗みを擦り回す何処かしらの斜めな艶から映りに渇く濁りを煌めかせ翳す触れられる浅みの裏返しが孕む厚みなら厚みに重みの匂いだけ纏わせて沈み浮き固まり溶け損なう形（なり）を周りに圧し狭める、逆さ擬きに脹らみを滲ませ散らす窪まりの、眩みそっくりな艶めきのそこにだけ込められ現れ偏る平らかさの乱れ狭まりは、その裏向きの狭まり乱れの薫りを何処かしらの内向きな艶からの映りそれともあからさまな映りへの抗いかに延べ拡げ崩し裂き磨き纏わせる、な幾つかな強張る向きに厚みを籠める纏わせの身振りそれとも身振りへの抗いそれとも抗い切れ無さから食み出る痛みそのものかな滑らかな身振りの外に渡される透け果てめく狭みの一連なりにも裂かれ捩れ、な裂かれ捩れの接ぎ合わさる丸みを高みかに描き損ない、な損ないに厚みなら厚みを匿わせ、それとも、な厚みの匿わせを翳し晒して俯きの丸みを沈み滲ませ匿う、な匿わせそれとも匿いを繋ぎ隔てる艶なら艶、で無いなら狭みを平らかに狭め直す弱げに捩れながら縮み角張る冷たさの硬さの内の柔らかみの内向きにしか動き回れない、深みの無さを象って浅みの汚さを測り切れる程に

は深い狭さを熱さの濁り果てに換えては同じ捩れを繰り返す窪まりの狂い無く暗みと明るみを行き来する乱れに振られ震える平らかさへの抗いを舐めるようにに明るませ、それとも暗ませて眩み煌めかせ、な眩みだけが眩みを透け抜けようかに狭み窮みへの一筋な渇きを振り撒きたげに、な平らかさへの抗いの一欠片を一欠片異ならせて選び失せさせたい明るませそれとも暗ませからの引き下がりに触れられる重みを沈ませ脹らませ重みの先へ届きたいかに爆ぜさせ、それとも、な重みの触れられる乱れを湧かせるしか無い、な、しか無いの一欠片めいた眩みの展べ渡らせに映し写されるかに知らされる、一欠片めきを一欠片めかせる何処かしらの外向きな艶からの、眩みを明るませ拒む円みを円みへ刻み消し拡げ延ばして明るみな限りな眩みを返し失せさせ衝き上がらせる、にも、な衝き上がりの直ぐに暴かれる偽りの、沈み揉まれ濁り凝（こご）る、一欠片めきの切れ目めいた内へ閉ざされ偽る平らかさを偽る柔らかみの震えなら震え、震えで無いなら震えに淡く纏う翳りの粘りの緊く締まり弛い限りに平らかめいて弛（たる）む、触れられる平らかさの色に満ち捩れ引っ掻かれながらも触れようも無い沈む向きの流れの丸みを含み吐いては偏り墜ち懸かり流れ浮き猛る、にも、な流れに尖り厭い透ける、斑に濁りを鏤めた狭み乱れの奥まりの、な奥まりを溶かし消す振りの眩みを濁りの斑から僅かずつ垂らし込む明るみなら明るみ、で無いなら明るみを砕き眩ます奥まりの狭み窮まる一震えな、な一震え

の内へ震え逃げる程に細みを強いられた揺り返しの行き迷うかに連なり重なる奥まりへの乱れの消え現れは、な連なり重なりごと平らかさを丸呑みかに暗く弱み拒む一欠片かな微かな揺らぎを絶やすまいと艶めくに違いない艶めきの、な艶めきの為に艶めき異なるしか無くにも艶めきをも艶めき異なりをも貫く構えの始めから何も艶めかなかった奥まり異なりの、な異なりとの異なれ無さの偏り損なう損ないの痕だけを残す浅みへも深みへも叛き異なる窪まりそれとも脹らみの僅かな限りな触れられる厚みなら厚みはその影を濡らし刻みたいかな一震えを一震えな儘に凍らせ損ないな損ない痕を逸れる厚みの一震えが匿う歪みを斥け切れば歪みの尽き痕に、な痕が必ず孕む丸みを拒んで眩み透けるしか無くにも濁り狭まり逸って痕を消し尽くそうかにも、な濁り狭まりの重みの連なり尽きない限りな拡がりの貫きなら貫き、貫きで無いなら貫きに換わる何も有り得い限りに何でも無いとしか失せ現れ消えない、な何でも無さの尽き無さが窄み拡がり果てる向きを向きで潰すか潰し異ならせるかしたか、な放たれるしか無かろう貫きの貫きへの貫きに貫かれる、乱れの狂い無さに傷付き尽きない奥まら無さの尽き無さが尽き無さ異なれずに尽き無さを潰し尽きない向きの一振りの、一振り異なる独り先へ退くそれとも予め退き廃れて懈そうな冷たさが囲む貫きの溶け痕そっくりな粗く斑な眩みの重みの眩みへ突き刺し明るむかな、円みを近付ける近付け疵付ける刺刺しい軽みより軽いなら軽みを砕き

散らす狭みの舞い回り凋む凋み振りのその振りな限りに円みが匿う明るみと距たるだけ距たるしか無いに違いなくに切り出され尽きない小さ振りの明るみとの距たりへ接ぎたくても接げない狭みなら狭み、狭みで無いなら狭みと逆さな向きを放って放ち尽きない明明と眩み回り狭まる貫きの構えを消し現れさせる、眩みを斥け拒む限りに断ち落として落とし切れずに眩ま無さ独りを退きようも無く透け貫かせる奥まり擬きな明るみの円みの切り裂かれ果てれば円みの明るみの戻り来ようかな貫き異なりそれとも貫かれの常に遍く撤かれ拡げられるならその先がその儘に後な、な先と後とに磨き出されるしか無い艶の薫りの縮み逸りそれとも荒荒しい限りに縮み異なる振りの頽れるしか無いかにも後を失っては先ばかりに先を誤り続けよう切り裂かれ果てた円みとの測れば測り直す程に狂い無く測り知れない距たりの鋭さが尚も切り裂かれ果てた円みを疵付けるかに、にも、疵が疵を治し癒やすかな動きに惑わされる、距たりの鋭さの失せて失せ尽きないその乱れ無さに疵ばかりが消え現れる厚みに圧される限りな小さ振りの明るみにしか擬えられなかろう、な擬えとの距たりとの距たりに墜ち浮かび凍り消え現れる現れなら現れ、現れで無いなら消え尽きない尽き無さのその尽き無さとの距たりとの距たりをその距たりとの距たら無さの現れとして引き受けるしか無い微かにも狂い無く微か異なって眩み明るむ、それとも、な眩み明るみだけは厭い拒む儘に、な儘な形（なり） 独りに小さ振りに閉じ固

まりながらに小さ振りから食み出し墜ち尽きない、な無さに吸い取られ尽きない、な尽き無さとの距たりだけは硬く刺さるように現れ果てなかろうかに疾つくに果ててようかな果て無さそれとも果て無さ損ないの何処へも奥まらない狂い無さは、な儘な形（なり）なりにも、な形（なり）を拒み棄てようか、な、かな、な痕が独り、その独りとの距たりを測ってしか痕では有り得ないに違いなくに消え現れの互いの引っ掻き引っ掻かれ痕かに消え現れ損ない続けよう、かな見通し擬きな眩みが眩みの明るみを突き抜け眩ませ逸る、な暗みの向かい来る向き一つが一つで有り得ない向きの一つ限りな入り乱れ、で無いなら一つ限りに尖り尽きよう尽き無さの切り開き剥き現す現われの乱れる限りに奥まり異なり迫り狭まる一つ限りを貫き抜ける貫きなら貫きは、な貫き異なろうと異なるまいと貫きとの距たりに一つ限りに乱れる限りに潰され現れそれとも翳されれ剥き出され消され、な消されな消えだけが独り、な独りの一つ限りから裏切られるに違いない形（なり）を晒すなら晒し、晒さないなら、な晒さ無さを無さ異ならせて晒すと晒さないとの距たりそれとも接ぎ合いの厚みを望むしか無いかな、な、しか無いかなに凍り付いてしか乱れる限りを一つ限りに換えようは無く、にも、な換えようは無くの狂い無く狂い続ける凍り付き、それとも凍る儘な溶け窮みの小さ振りめく厚みへの望みの剥き晒し独りが、独り異なる儘に、な異なりの限りへ貫かれて行こう向きなら向きは向きな儘に溶け凍り脹れ

る塊の震え窮みかに剥かれ砕かれ、な砕かれの軽みに挫けよう直ぐに失せれば失せ痕それとも失せ痕の失せて痕の無さの遠い限りに近さの明るさを淡く尖り鳴らせ響かせ尽きない果ての拡がりそれとも、な拡がりの裂け目だけがその拡がりかに近い限りに見晴かせる狭みの奥まり異なりの剥き失せる失せ痕の失せて痕の無い、その狂い無さ独りがその独りを苛んで苛まれたその独りに苛まれ、にも、な独りは独り異なりに狂い無く換えられよう、明るさが軽みに換えられるかに、な換えられを換え切らせて独り異なりを砕き失せさせた眩みなら眩み、で無いなら眩みの尽きるまで眩みを貫き尽きない、軽みから軽みに触れられる直ぐ外からかに現れる円みを擬え損なって明るむ明るみが匿う小さ振りに匿われる、な円みを映してる円みの円みで無さを晒し翳しながら厚みへの望みを衝き貫いて砕き潰し損なえば望みは円みへ接ぎ移れよう微かな明るみを絶やさない眩みを越えて眩みの高みを向く奥に艶めく、真下を向いて円みの円みで無さを真下の手前に円みの円みで無さと距たる限りに距たり窮まる有りもしなかろう小さ振りにでも映し移したい、艶の艶で無くなり懸ける小さい限りな一欠片に似た円みで無さでしか無い円みの徴を内へ転がし已まず、にも、な已ま無さの軽みに透けてよう、円みで無さを重みかとも映しそうな僅かな限りな暈けの浅みの艶に匿われた、円みとも円み異なりとも異なる、な異なりに厭われ已まない円みの影の沈めない澱の覗かれようかにも、な異なりから滲む円みの艶の軽

みで軽みを捕らえ捕らわれる深みなら深み、深みで無いなら浅い限りにその浅さに転げ込んで遊び回ろうとする円みの影の砕かれる限りに砕き果てさせられた欠片の、水より澄んで滑らかに小さな流れ始めの冷たい静まりが抱き隠し損なう淡い暖かみの直ぐに消える丸みを帯びようと消え際の縁に渦を巻きたげな厚みに吸い取られるかに滑り潜りたそうな、暈けの浅みの艶を透かす軽い限りな重みの重みの中でだけ舞い踊る一つ限りの向きの鈍い限りな煌めき、それとも、な鈍みの暗みへ溶け砕けて偽の明るみを疾っくに取り込んだ振りで散り拡がる窄む向きしか向かない奥まりの数知れ無さを奥まりの外へ斥け送れる限りに送れたか送れなかったか、その間違いなくどちらでも無い無さに匿われた偽でも偽で無いでも無い明るみ、にも、な煌めきか明るみを明るみ眩む軽みなら軽みを眩ませる軽み異なりの一処に捩れる形（なり）で絡み重み脹らみ翳る翳りの濃さの掠れ沈み懸けて揺らぎを呼び込むかな色を拒んで厚みを滲ませたかろう色めきなら色めきの色めき異なりの内へとだけ暗む暗みの混ざり合いに現し翳し消される軽み異なりの消され痕それとも、な痕の予め失せてよう徴の濃やかにも滑滑と荒荒しい、そこに独り仰向けに立ち窮まる揺らぎそれとも揺らぎを異ならせる揺らぎを侵し殺ぐかな眩み擬きな一戦ぎの、色めきに虐げられ裂かれ消された薫りなら薫りの裏へ密かにその奥まりの為の光りを届け損うに違いない一筋に平たい限りに丸み拡がり断たれる、定めようのない向きを乱し

散らして硬そうに燃え拡がり頽れ掠れる弱みの塊の脹れ震える、乱し散らされる向きと必ず限り限りまで斜めに向き合いながら、な姿の斜交いに向かい来る重みの偏りを、幾つかの色めきの厚みの継ぎ接ぎの触れられる奥行きを暴き添え固め閉ざすその丸みを自らで裂き損なって丸みに凭り掛かるしか無くに、傾きの過ぎれば動きを止めるしか無い冷たさで包み転ばせる奥まりの窄まりは、ほんの少し向きを変えれば奥まり異なるしか無くもその奥まりに抗おう窄まる向きに向き向かう拡がりを受け容れながら平たい明るみの乱れ鈍る鈍みに侵され占められ、それとも、な侵され占められは直ぐに向きを逆さに変えるしか無いならめ軽みに換えられようか、な軽みを軽ませる、奥まり異なった筈の奥まりをさも明るませるかに匿う丸みの欠片の穢げに潰れ漂うような揺らぎの薫りなら薫りの圧し詰められ向きを狂い無く定められて丸みを丸みに隠らせるかな尖り振りを翳し色めかせ、な色めきを波打たせさえし盛って薫りなら薫りの消え現れ尽きない形（なり）を確かな触れられる暗みで現し暈かし、それとも消し丸まらせ、な直ぐに滑り始める丸まらせの暈け尽きない薫り異なりの常に向きを磨り減らされて薄い限りに微かな汚れを際立たせ翳ませる縁へと波立ち墜ちるかなり翳りを消されるしか無い翳りの透け強張りが指し示す一震えの淀み沈む、暗みを暗みな儘にその匿えよう筈の無さを溶かし暗ませて匿う黴めいた重みの窄まり振りの、僅かに弛く垂れるように下を向く向きだけが明るみを招き入れ

ようかな、な明るみに疾っくに囲まれてその形（なり）を眩ませるしか無い薫りなら薫りの薫りに逆らい滑り強張る平らかさは、丸みに渇く震えに常に脅かされるかに自らを眩む丸みへと断ち丸まらせれば細みと柔らかみの絡み捩れ始める、その透けの汚れに執濃く刻まれ接がれされるしか無いなら丸みへの渇きな儘に、な形（なり）を強張らせ転がし揺らめかして囲まれた明るみを殺ぎ放り上げては消し現し消され、に独り窮まろうとする、な独りな震えに震えて震え已めば、な震え已みに塗り込められるかなさも惨めに眩み果てたかな奥まりの丸みとしか測れない奥行きに重く湿り閉ざされるかに取り憑かれようか、な遥か先を断たれ接がれるかな圧しそれとも圧しの無さに薫りなら薫りの薫りを奪われ、それとも、な薫りの怯える振りな尖った強張りこそ独り周りを拒み睨むかに、断たれた遥か先の間近過ぎる裂け目に沿い溶けようかな偏りを蓄え傾かせ、な傾かせの色めき逸り消えるならその消える儘な形（なり）なりに現れ尽きる、丸みなら丸みなその丸みで丸み異なるしか無くにも、唯丸みを二つに裂いただけの偽の姿を晒し衰えて穢げな色めきを浸み透かす触れられる厚みのその厚みで厚みの欠片でしか無い無さは無さと無さ異なりとの境へとも解き放たれたろうか、に解き放ったなら解き放った色褪せた振りを翳し遠ざける遥か先の間近過ぎる薫りなら間違いなく薫りと異なる滑滑ともに密やかに秘めやかさを晒し滑らせて切れ切れに暈け弛んでは奥まりを拒んで暗みを暗みの底へ流し

落とすしか無い拡がりへと窄む窪まりの薄い限りな圧しの硬みの隙の無さに無さを食い千切るかに粘り込む、眩みを直向きに拒んで拒み切れずに硬みの隙の無さを己の身かに裂こうと薄い限りな圧しの柔らかさに渇き過ぎて透けの濡れの熱れるような重みに流れながら向き合うしか無い無さに上塗られるかな硬過ぎて冷たい限りな虚ろな暖かみの硬くざらつく内を舐めるように削ぎ丸まる翳りなら翳りの翳り自らを殺ぐ円みの虚ろから湧き出るかな、透けに汚れ果て損なって圧しの硬みを砕き粘粘と重過ぎる眩みの塊それとも塊に擬えられた塊の姿を晒し窮め匿う穴なら穴の穴で無さは、無さ逸る余り無さ異なれも出来ず、それとも間近過ぎる円みなら円み異なるのも儘ならないそれとも円みから偽りな真下へ流れ拡がり撥ねるように直ぐ様尽きて透けへの渇きに真上へ捩れ衝き上がるそれとも、な衝き上がりこそ偽りに違いない確かさを砕いて砕かれ痕に突き刺さる翳りなら翳りの先行きは奥まりを奥まり拒む儘に明るみを眩ませ窄ませて翳りを悉く溶かし流したかな圧しの硬みの隙の無さの立ち昇りの窪まり擬きな断ち切られが翳し窄ませ暗ませる、虚ろな暖かみの疾っくに抜き取られたろう形（なり）な内ばかりを匿って縮み尽きない、圧しの一つ限りの向きを小さい限りな一揺れに籠める向こう向きな形（なり）で向き向かう消え現れなら消え現れの消え現れで無さは、無さ尽きないなら尽きないで、な尽き無さの尽きるまでの一揺れまでをあざとげに測り取って、その測られた距たりなら距

たり、距たりで無いなら触れられない圧しの円み異なり過ぎれば異なりごと円みに呑まれる冷たさに換えられ、な換えられは換えられ尽きるも尽きないも無く冷たさな儘に圧しを弾いて独り円みだけに至る円み異なりに換わり、それともわり逸って換わり異なり、な異なりを断つ異なり異なりに乗り移れたか映り失せられたか、にも、異なり異なりの異なさらなさに拒まれるしか無くに、冷たさに囲まれるかに冷たさに裏返され、にも、な裏などが無く、な冷たさが冷たさを断って冷たさは失せるなら、な失せの何も映さない艶めきそれとも艶の裏返りに引き寄せられ引き延ばされ引き千切られ、にも、な裏など無いかそれとも裏の裏の無さしか無いか、な裏は疾っくに貫かれ、なら貫くのは円みしか無かろうな向きを拒むのは円みしか無かろうな何も映さない、な何も映さ無さに映る、その無さの無さ独りが、どちら向きにも円みと狂い無く距たり、それとも、な距たりも貫かれようか、な貫きだけが独り何の貫かれからも独り剥がれ滑るように離れ、な離れ独りでは何から離れがようも無く、に、な離れでしか無さに潰され、にも、独り離れるしか無いなら独りも離れも独り異なり離れ異なるしか無い無さを何に映せようかな疑いだけが独りそれ自らを貫くような、にも、なそれ自らなど無い、その狂い無さに嫌でも立ち向かうしか無い一つ限りに窪まり潰れ影の僅かに褪せるかに全く平たい薄さに閉ざされる向きは、その狭み至る窮みに独り異なり異なる、な異なり異なりを一つ限りの向きを拒む円

みに貫かれようか、な明らか過ぎる兆しなら兆しが兆しを消し明るませるような透ける厚みなら厚みでも無くに透けを厚ませる現れ消えの透けからの距たりに占められ貫きさえ阻む円み異なり、それとも、いや、なそれともをも斥ける透けの厚みなら厚み、厚みで無いなら円み異なりに阻まれる拒まれた向きの向きが独り剥き出され円み異なりを貫き返す返し際に映る透けの艶めきなら艶めきの円み異なりに沿って薄い限りな薄みに潰れ撒き散らされ溶け繋がる様の拒まれた向きと向き合い逸って映る逆さの円み異なりにも擬えられようか、な擬えられ独りがそれが匿う透けの内に自らを映そうと穢げな揺らぎを呼び込む煌めきに呑まれる煌めきが蠢き逸る振りに隠れるかな贋の科でも作りそうな、な贋を消す程に小さい限りな、な程に露わな徴が徴を貫き徴に貫かれる、にその狂い無さが狂いに渇き已まずに開く円み異なりとも比べられる高みに圧されるる向きを含ませようかに高みを砕き丸まらせ偏らせる何処へも映らない映ら無さを衝き貫くように明るませるそれとも明るみ尽かせる厚みが厚みを貫けば厚み異なりへ厚みが傾れ拡がり果てる眩みを脹れる果てまで脹らせる、にも、脹れる果てに脹れ失せるしか無いと予め失せ逸り拒み損なう、に失せさせた明るみの徴一つの明るみを斥け棄てる形（なり）を匿い守る狂い無い透けの、狂い無さ過ぎれば透けを透けの儘に濁らせ尽くす、内に隠り眩まされた外からの一衝きな一衝き異なりのそこへしか行けない無さを断ち切られる、向き向かって

来る円みの圧しの外でしか無さを見誤りの惨めさを喜びに換え拉がれるかに、ついて底知れない冷たさとでも誤り逸る偽りに逃げ込んで受け取り損なうしか無い、なそこがそこの影をそこの底知れなさに映すかなら、始めから無かった底知れなさなど温温と消されて淡い限りに重げに汚され、な汚されに衝かれ浄められる円みを貫く向き限りの、向きその儘かな一衝き異なりのその異なりへの撥ね向かいが衝き分け現す、偏り延びる虚ろの凝（こご）るかに暗みを刻み続け掻き消す奥まりの、奥まり限りと、な限りを剥がし剥がされた限りを薄い限りに漂わせる限り奥まりとの隙が開かれ閉ざされる隙なら隙、隙で無いなら高みの崩れ果てて浮き立つ酷く脆そうな重みのその向こうへ転げ抛られる向きの下り偏り丸まり懸けて丸まりをこっそり拒む汚さ、それとも透ける限りな疵一つ無い滑り蕩けるかな暗みへの窄まり独りがその独りからだけ裏返ろうとする僅かな熱さが移し映る、その明らか過ぎる映りの燻み潰れた、それとも突き固まり色付く、な独りな形（なり）の、何処へとも動き巡られそうにもゆったりと僅かに揺れ留まる留まりの静かさの荒荒しさに撥ね除けられて弛く易易と幅を拡げたかな奥まり限りに映り込む狭い限りな薄さを誇るかな虚ろなら虚ろ、虚ろで無いならその狭い限りな内へと浸み通る、それ限りなそれの充ち溢れ、に、そんなそれの現れるばかりで消えないせいで、なそれと異なれるか異なれないかの、その偽りに違いないどちらでも無さをゆるゆると保ち静め沈め、に

も、な沈められた透き通りめく狭い限りな明るみそっくりな拡がりの艶めきならめき、艶めきで無いなら汚れ窮まり白む丸みを帯びてしか自らの重みと重みに隠された恐らくは白みの脆さを支えられないかな、斑に白みに抗う裏向きの窪まりの欠片を溢れ沈みそうに鏤め満たした、触れられる揺らぎの揺り返されれ揺らぎ消える消えの偏り穢れるしか無さを暗げな温かみに変える厚みそれとも厚みの失われは、直ぐにも厚みの無さに擦り換わろう換わり目の明るみそっくりな崩れた円みをしか映さない程な薄みの内へ燃えるような温かみ、それとも薄みの僅かな捩れ傾ぎが作る薄い限りな影の濃さと薄さの現れ消えに艶めく色なら色の白み果てたかに燻み泥む汚れの無さの穢ればかりを匿い守る柔らかみそれとも柔らかみの柔らか過ぎる、明るみそっくりな硬みの揺らぎ返されの薄い限りな綾なら綾の潰れ艶めく汚げな厚みに擬えられた、小さい限りな、な儘に震えを幾つも重ね潰し揺れの同じ繰り返しに隠される艶めきの内の翳りなら翳りに被われ隠らされ、にも、厚みの失われならそれを逆さに透かし貫こうかな見通しへの望みの、崩れ果てた円みが映り逸る穢れを閉ざし満たし約めた小さい限りに尖りながらにその重みを拒んで斜めに二つに分かれ懸かる艶めきの揺らぎの兆し凝りから噴き上がる、穢れさえ穢れな儘に刺し貫こう小さ振りを翳し煌めかせ暈かし消す、それとも、な暈かし消しを失せさせる、現れようも無かろうに、な無さとも絡み已むしか無くに、な已み痕な形（なり）な儘な

円みの崩れ果てとの距たりに丸み汚れ懸かる断たれた明るみそっくりな硬みの幅を微かにも利かせ過ぎる一欠片の暗みへ墜ち懸かる向きへの偏りを救おうと繰り出され失せる、な失せに纏わり付く翳りを眩ませ、眩ませ損ない、に損ない眩む眩みの丸みを孕み窄ませ消し尖らせ失せさせ、な尖らせ失せさせの已ま無さの透けるしか無さに溶け翳され弾け弱る、揺らがない揺らぎそれとも揺らぎと揺らがなさが互いにとっての兆しの打ち消しを匿う振りを振り切り棄てる、触れられるかな重みの湿りに揺らぎの襞を重ね開き裏返る向きへの、な向きの失せへの見晴るかされが凋み白み湿り已まずにも、な已ま無さの襞の崩れ丸まりへの渇きの白みへの拒みへ偏り流れ断たれ損ない、薄みな形（なり）をあどけなく晒そうかにあざとさ振る襞に準えた如何にも有りもしなさそうに並び傾ぐ切れ目切れ目のその閉ざされ腐る狭間狭間に匿われて見え隠れも為そうな兆しを温く、数えられるかな鋭さの眠るような色合いの裏向きに厚みを生ませる重みを直隠す湿りのあざとさ振りの頽れに襞な形（なり）を為すかに翳る、それとも輝く、のなら、唯厚みに厚みを知らせる厚みを圧し歪めて翳り暈かす暈かしの、暈かし独りが翳され圧し詰められ虐げられよう淡い重みを纏わされる纏わされに塗り込められた拡がりな振りでしか自らに映り込めない奥まりならば奥まりを塗り込め逸り逸れ、にも、な逸れからさえ逸れるしか無さ染みた淡く潰れ捩れる襞の裂け目の抛り棄てられた姿かな様の、白みへの距たりへ逃れな

がらに拒もうと震えるなら確かに逃れられたろうか、な並び傾ぐ切れ目を一連なりの影に貶め偏らせ潰し明るみ暗ませる、眩みに満ちたかに苦過ぎて硬く白むばかりな曲がり懸ける薫りを鋭く斜めに走らせようかにも、な鋭さのさも果てなさの頽れに抑え込まれる、何の切れ目とも切れるしか無い見窄らしい程に細くも卑しげに途切れない眩みの眩みからの逃れ食み出し脹らみ凋み尖り、かに透け暈けて直ぐに途絶える輪を厚ませ描き掛けるかに、切り断つように先に待つ眩みを望む、眩みへ戻りそびれる儘に眩みへの侵されを受け容れる振りで、必ず見出されるしか無い眩みの切れ目を暗みを活かしてあっさり切って返し、その何の切れ目をも束ね拒み失せさせる、な拒み失せさせとの距たりに白みを滲ませようかな影なら影、影で無いならひたすらにも淡く暈け已まない明るみか、な明るみの影を消し現す湿りを含んで白む限りな柔らかみの沈み懸けるかにふくよかな偏りの翳りを淡い限りに明るませる、な明るみを接ぎ距たる平らかさの平らかさを許さない丸まりの窪まりと窪まりの裏返りの綾為し損なって浮きはぐれる重みを引き受け重ねるかな狭く閉ざされる襞なら襞の色が色の内へと食み出し已まず、窮まり、にも平らかさの汚さの上っ面を流れ淀み進み窪まり窪まり窪まりの外へ裏返るしか無い無さを持て余すかにも戯れ転がし、にも、な転がしの転がし損ないが繰り返されれば、な繰り返しに映る白みの重みそれとも軽みの裏返りに撓り千切られる眩みなら眩みの血を水のように通わせ

る強張りに擬えようとする厚みそれとも厚み擬きに白みへの拒みを匿う軽みな
ら軽みの、その脹らみならる脹らみの襞の色への架け渡されを焦がれ乞う白みへ
の拒みの捩れ惑う形（なり）が形（なり）なりに白みだけは拒む色へと浸み貫
かれよう翳りに湿る幾つかに分け隔てられ繋げられる平らかさめく狭まり、そ
れとも狭まりめく儘を拒み損なう儘に拡がりめく窪まると窪まりの裏返り損な
いが折り重なりずれて端では溶け繋がる一つ限りに奥まる限りにだけ内向きな
ら、その平らかさは放たれる儘に外向きにしろ向かれる外に塗り込められるか
に狭みしか無ければ、内と外とは偏りの必ずしも距たらないにしろ隣り合いも
しない互いを見知らない端と端でしか無いかに、失せたらしさな色を隠し損な
う襞の色への焦がれ渇きを色に出すか、な色こそ隠すか、な行き違いさえ為な
さそうな白みへの届かなさを競おうとする重なり合って揺らめき斥け合う揺ら
めきの平らかさめく脹らみとその端から脹らみ崩れる、滲み逸れる暗みの接が
れる繋がりと繋がりの、狭み向かい弾け流されるその行き止まりなら行き止ま
りの暗みの接がれを際立たせる偏りと平らかさの入れ違う限りに狭まる、な狭
みの内へだけ拡がり曲がって丸みの切れ端をその厚みに準えて並べ、ようかにも、
な拡がりに墜ちる明るみの穢れた音を響かせる硬みに阻まれよう、にも、な阻
まれこそ揺らめきをそっと湧き出すかに現し消しそうに、その上辺に確かな薄
みを纏わせようか、な、眩みを頑なに隠し匿うに違いない、内向き過ぎれば脹

らみを筋張らせて失われた自らの影を追うかに捩れ延びる切れ目それとも切れ目の痕の、何の切れ目とも知れ無さの暗み臭さの汚げな鋭さは、鋭さな儘に鋭さまで振り棄てられる望みを激しく隠し隠らせよう振りを潰し潰し、な潰しの暗み臭さを繰り返し失われた自らの影に添わせようと、その失われに淡く翳り並ぶ細みの暗い限りな明るみの影を吸い集めよう白みなら白みの白さを穢す暗みと明るみの入れ替わり已まない拡がりめく狭まりの暗みへの偏りから仰がれる延び切った襞なら襞の翳りと煌めきの入れ違いを入れ違わせる高みと狭みの継ぎ目の平らかな傾きに映る影なら影の失われと甦りそれともその狭間に刻まれる暗みへの偏りの眩み暈ける潰れ果てた煌めきなら煌めきく汚さの溢れ返りの滑るばかりなような翳りの厚みと薄みの戯れなら戯れの重く粘る虚ろを誇るかな透けた厚みの透けが映り移ろうとする、それとも疾っくに映り移った汚さを拒みたいかな微かな限りな身震いの透けへ淡く消え懸かる柔らかい限りな薄げな厚みの厚みの儘な筈も無くに厚みの果てを探すかな鈍く煌めく丸みを映し誇る狭みの平らかさの窮み尽きない尽き無さの尽き無さから逃れようとする一震えな消え現れそれとも丸く窮まる煌めきの影が裂かれては塞がれるかな上げ下ろしの突き上がる突き上がりの窮み尽き無さばかりが平らかさを抑え損なって、な損ないを避けるようにも向き合わされる眩みの小さ振りの煌めきの奥へ浸み抜け溶けるかに暈け窮まれば煌めきを煌めき返して貫き通すしか無い、拡

がりばかりを目指し損なう奥まりは、直ぐに奥まり已む、その已みに駆られてその薄い限りな白みの平らかさへ奥まり窮まり損なって奥まりを匿い奥まるしか無い虚ろな煌めきめいた小さい限りな勢いの内向きに暗む兆しを厭い吐き晒す、な晒しの透け濁りの頑なに汚げな、にも、な汚げを溶かし拡げ盛（さか）らせ盛らせ失せさせ尖り寝かせ、にも、な寝かせの鋭過ぎる立ち現れ暈け白んで脹らむ形（なり）をそこがそこな限りに埋め尽くす柔らかみの濁り透けは、柔らかみな限りに偏り傾ぎ浮き立つ徴を内に満たし已ませ、な已み窮まりに被われてだけの柔らかみを切り剥がし、それとも、な切り剥がしを映す柔らかみの底なら底を舐め白ませるかに重みを軽みの裏返りに追い遣る、な追い遣りの上滑りと直ぐに滑り已む已み際の裏返りの、何の裏返りも現れない現れ無さを映す柔らかみの白む限りな粘り着く影でしか無い薄み振りそれとも、な薄み振りを映し損なうしか無い底など有り得ないで脹らみ果てた柔らかみの向きを定めない溶け逸りそれとも、に溶け逸る形（なり）を凋ませ穢させる、眩みなら眩みの映り込みなら映り込みの、一つ限りな穢れで内を満たせば穢れなど有り得ない、な様に狭み至り窮まる、それとも、な窮まりを蔑み砕くかな軽みそれとも軽み已みの薄み振る形（なり）なら形（なり）の、明るみと奥まりの入れ違いそうにも何の明るみも奥まりも拒んで奥まり明るむ広みの広みな儘に暗みを拒む姿を匿う揺れ動か無さの、な無さに潜ませ翳される、斑に穢れ柔らかみ

逸る一連なりの虚ろを透かす厚みへと接ぎ添おうとする、にも、尚も揺れ動か
なさしか向けないなら向けないで、揺れ動かなさを揺り動かす虚しげな振りば
かりなら却って鋭く揺れ動かなさに切れ込もう、な切れ込まれるらしい先なら
先に柔らかみに満ちる様を明るみを拒む奥まりの狭まるしか無い丸みの平らか
さの暗過ぎるかに深さだけを晒し過ぎればあからさまな深さを背に浅みにも届
かず倒れ込む様の傾きの透け失せる失せ痕の透けに映る、それとも映りようも
無ければ無いで、そのものな儘に触れられる厚みの触れようも無さを誇るかに
あざとげに恥じらうかに嘆くかな振りで、な振りを拒み、な拒みを柔らかみが
匿った丸みに切り取られるかに浮き沈ませ、それとも白み果てた影に縁取られ
て虚ろを匿う厚みだけな投げ出された切り平らかさが内に含む丸みを艶に換え
懸かるかにも、映り込むらしい明るみを艶の暗さなら暗さで受けるしか無くに
も受ける程に、その受けごと抉り取り去られたに違いない窪まりの、艶の暗さ
を湿っぽく蝕み続ける、丸みを帯びて何にも触れさせない冷たさの冷たさの先
へ窄まり向く向き独りが冷え冷えとも揺らぐ振りを贋の冷たさと混ぜ合わせ損
ない、にも、な損ない痕の無さを静かに沈み浸み占める内から内への拡がりの
奥に匿われた贋の冷たさより贋の外は軽みより虚ろな重みに自ら拉がれて外で
無いのを暴かれながらも何処へか逃げ懸けるか外との異なりかな見映えに縋り
付く振りで捩れ損ない、それとも速過ぎる振りの切れで捩れるだけ捩れ、な切

れに溺れ弱るかに外との異なりな見映えがその見映えを外へと異ならせ、な異ならせが内なら内に匿う外は匿われる限りに外からの異ならされに侵されるしか無くにも、な外を内へと抉り現し翳してその自らの外との異なりが拡げる距たりに窪まり懸け逃げ懸かりながらも舐めるように付き纏いこびり付き粘り頽れ懸け、にも、なこびり付きの頑なさで直ぐに剥ぎ取られようし兆しに既に滑り墜ち掛かってそうにも上辺は滑らかに怯える振りで、それとも喜び躍る振りで自らの重みの外へと狂い無く剥がれ落とされようかにも窪まりを緊く掴み取るかな少しもそれを望まない儘にも再び現れて仕舞う外との異なりの触れられる厚みなら厚みの白みさえ厳しく斥ける色褪せ果てた重みと軽みの狭間に明るんではり失せる、失せようも無いらしい蝕まれ已まない艶の暗さの暗さだけは失せて艶異なる艶の、艶異なり已まないない艶の已ま無さ独りが艶と艶異なりとも異なる、その外なら外、外で無いなら外がそっと呼び寄せたかな騒がしそうに暗み窄まって古び崩れ爛れる鬟を覗かせる奥まりの裏へ映り懸かる外の明るさならる明るさ、にも、な窄まりの乱れ温み溶け懸かりかな狭みに、自らを映そうと暗む艶の已み果てる一震えの震え已みそれとも、な震え已みの暈かされ現れる現れへの傾れ懸かりの向きと向き合い損なうかなら、な様を翳し明るませる擦れ違いの丸みへ傾れ懸かる傾きを探り取りたかろう微かな望みなら望み一つ限りを纏い、それとも纏い脱いで脱ぎ切れないなら脱ぎ切れ無さまで重ね纏うか

に疾っくに見失われた筈な艶の已みへと偏り粘り溶け懸かり、にも、な様など艶の已み果ての一震えに映り移るだけの狭いばかりな閉ざされ懸ければ艶の已みに背くしかない一眩みの狂い無く潰れ尖り現れ消える現れ消えの偏りが刻む震えもしない一欠片の影の狂い無く艶の已みの先の艶それとも艶異なりへの走り去り、な形（なり）を晒し崩し、な崩しの艶の已みがれうかも知れない明るみの重みに締め上げられ圧し捩られる軽みそれとも狭み匿う狂いの狂い無さに撃たれ眩んで、尚も走り去る儘な向きの研がれ伸び細る狂み狂かのが軽みを捩り返せば返したで滑滑と痩せ細る形（なり）を尖らせ窮まれば艶り已みへ刺さり消え失せようかにも、な消え失せに匿われた硬過ぎる円みへ接がれる狭みの暗さを磨き出す眩みの重たげな鈍みを抱いて、な円みへの接がれの向きへ向き貫き向かい砕ける砕けの淡くは残ろう眩みの鈍みを切り刻んで明るむ向きの先の狭みな形（なり）の拡がりの狭み狂う儘な細みを舐め接ぎ傾いで、な舐め接ぎの流れ尽きが向き向かう、隈無く外でしか無くに外しか映さない確かにも暈け窮まって緊い影で身を守り過ぎる円みは、狭みばかりを硬く暗ませる振りを砕き暈かしてぬるぬるとした明るみかに塗り込め翳し捏ねて硬みから剥がれるかなら、な剥がれの裂け口は奥にまた円みを覗かせよう、な円みの脹れ果てるかに張り裂けるような内に透けよう明るみを匿う向きを拒む柔らかみなら柔らかみの、内に匿われた筈の明るみの暗みと紛う虚ろに内向きな上辺を溶かし堕

として滑り現れ消える重みそれとも、な重みこそ重み自らが重みを抉り掠めるように隈無く虚ろなら、な虚ろこそ明るみが明るみの内に匿う明るみの虚ろさそれとも抉られた重みを燃やし尽くすかに内へとだけ消え失せさせる狭みと一つな明るみの上辺に硬く塗り重ねられて已まない鈍い限りな輝き、かとも、な輝きの尽きない重みを掠め刻むそれとも刻み異ならせて湧き窮まる沈み尽きない下向きの濫りに拡がりめこうとする圧し拉がれた丸みなら丸み、で無いなら、な無さを白み果てた裏向きに沈み浮く重みの脇を貫き掠めて虚ろを覗き眩む沈み浮き異なりを舐め回し撫で擦り切らせずらし尽くし損なう偏りが偏りに縋るしか無い、な偏りと偏り距たり已ま無い已ま無さの下向きを滑り逸れる向きへだけの頑なにも濫りめいて拡がり已ま無い已ま無さの、な無さが無さに縋るしか無くに已み果てようかな向きから向き向かって来る向きの已みな形（なり）を翳し逸らし、な逸らしの重みに圧し拉がれよう眩みなら眩み、それとも、な眩みが匿い損なう虚ろめいた眩みの重み異なりかな眩み已み、な已みに已みが圧し拉がれようかな、な已みの始まりへでも戯れに遡ろうかにも窪まりめいてずれ已まない粘り動きの自らの重みに断たれ懸けても尚窪まりめく形（なり）を保とうと細かな震えを内へと切り刻んで震えられる細みな限りな粘り動きを震える襞な形（なり）に翳し晒し懸けよう眩み振りへ溶け消え明るみたい硬みの、硬みの儘を厭う硬み已ま無さの、無さ異なる已みとのずれ距たりを粘り追

い衝く痛みを持て余すかに動きを拒んで細み暈け、それとも、な細み暈けともずれ距たりたげに鈍い限りに暈け眩み、な眩みの広まりの広まり暈ける眩みだけに凭り掛かり添って添い切れ無さの眩みを拒み掴み進んで進み切れ無い無さの已み難さの鈍みを響き拡げる粘り貫きの動きへの已み難さに拉がれながらも、な拉がれから逃れ已ま無い無さの窄まり尖り奥まり窮まる狭み至りの更に奥へと貫き眩むしか無い、明るみとの距たりめく明るみ、それとも唯、な明るみへの明るみ、なら明るみ異なるしか無さそうにも明るみは明るみに貫かれ已まずに、な已ま無さの明るみに拉がれ順うしか無くにも、な明るみそれとも明るみとの距たりの内に匿われるしか無い明るみに背き懸け背き怯んで、な怯みが含み抱えよう明るみの柔らか過ぎて匿えも出来ず奥向きへ洩れ失われ現れ果てるばかりな明らかな明るみ異なりそれとも、な異なりを異ならせて明るみへの向きを失せ甦らせたい望みに苛まれる唯閉ざされる限りに、な限りの淡げに色めき鈍る強さに痛む向きにだけ明るむ明るみ已みの奥まりそれとも奥まら無さそれとも奥まりと奥まら無さとの背き合いが必ず呼び込む筈の一連なりの隠し現れ尽きる繋がりの明るみそれとも、な繋がりは繋がり已んでその明るみを明るみ異ならせるしか無い上辺限りな薄みに深みを晒す眩みの柔らかげな圧し拡がりそれとも、な拡がり狭まる狭み至りの渦を巻き掛けようかな兆しばかりが溢れ犇めき準えられ白み果てるしか無いなら燻み溶けて、にも、な燻み溶けのな

だらかな脹らみと脹らみが匿い濁らす柔らかみの僅かな噛み合わ無さが明るま
せる平らかさに薄く塗り込められけの連なりを波打たされたかな暗みの煌めき
それとも煌めきを沈ませ拒む、透温濁る厚みの拡がりでしか無さそうな、な厚
みに冷え込む強張りを溶かす贋のけかみをみい震わせよう触れられる透け濁り
の自らの震えに閉ざされ狭するしか無い、匿処へとも筒抜けめく低くへ走り粗
さを際立たせようとする色まいの一連なり何襞の影を繋げては繋げ損なう損な
い振りの酷く急くように奥合り窮まりたげな尖りながらに燻み拡がるしかそい
構えばかりの、少しずつ襞に似て行くらしい彩りだけは拒もうかな、ならなれ
は薫りか響きかとも急ぎ薫り異なり響き異なる振りを異ならせるか、な異なり
の直ぐ様向き向かう響き薫つて鋭いばかりな虚ろに咬み貫かれて虚ろより失せ
ようも無く虚ろかに失せた様を晒す虚ろを濁らせ満たし、に満たされた虚ろな
ら何処へとも映り移れよう、な様を、潰され失せた虚ろの底から衝き上げ覗き
拡げ乱す、明るみの眩みとだけは衝き上げに舐め砕かれ回される、な砕かれ回
されを新たに舐め返すかな恐らくは強過ぎて何処へも窮まれない、にも、衝き
上げを渦を乞うかに揺らし惑えば舐め回しも砕かれ回されも閉じ失せようかな
彩りの匂い立ちそれとも、な匂い立ちの厚みばかりな乏しげな一色の、その濃
さへと墜ち撥ね拡がって匂い立ちの外からの明るみに縁取られる丸みに侵され
果てれば丸みは揺らめき掠れる影としか沈み歪まない、かにも、その丸みの狂

い無く丸みでしか無さに僅かにも歪みようも無くに唯丸みの厚みを誇り翳す、歪みようもないなら捩れそれとも捩れを悉く呑み詰めては捩れの外へ塗り繋げ拡げる、動き已まずにも、な已ま無さに動きを殆ど奪われ尖り僅かな動きの外へとだけ、な様を映す艶を頽れさせる向きを定めない鋭さの鈍みの、その向きを一つ限りにも潰し濁らせては、な儘に、な濁らせの透け窮まり損なう向きへの躍り重み色付き吊られ惑い揺れる揺れを弄り回したそうな沈む色に染め損なおう兆しの次次にあからさまな穢れを撃ち拡げる重みに引き摺られて濃くも直ぐに流れ去るかに振り出される奥まりとの距たりに温められた暗みが崩れるなら明るみな内へ向き懸ける向きの丸みを乞うかな痛みめいた拡がり急く窄まりそれとも、な窄まりを貫き果て鈍って貫き已む已みの僅かな奥まりばかりが凍え逸れる伸び上がりそれとも巻き平らぎ沈み、にも、な様をも已ませて已まない已みの独り奥まるなら奥まる、奥まらないなら奮い盛（さか）るかに細み窮まって小ささを翳し準えよう、な準えに向き向かう向きからの吸い圧し延ばされようかな真っ直ぐな誘（いざな）いの穢らわしさ、それとも穢れ異なるしか無さそうにも、な穢れ異なりを弄り傷めて穢れと穢れ異なりに差し挟まる細み窮まりで固まる塊の塊より遙かに厚く僅かに重そうな僅かさに拉がれる形の影の溶け已みが刺す僅かに温かい小さい限りな円みなら円み、で無いなら、な無さに纏わり付きたげに沈み掛ける輪を描き懸けるしか無い、な輪の外向きと向

き向かう濁り果てた明るみの穢れそれとも、な穢れを拭おうかにも、明るみの穢れ已むしか無い已みの揺らぎに明るみは刻まれよう、な徴ばかりの振り撒かれて立ち塞がる平らかさの匿い翳す常に切り刻まれようと焦がれる円みの円み異なりを粘り接ぎ已まずに触れるかに眺め遣る恐らくは狭みへの拘りの圧し延び滞りの、その圧され延ばされる先が有るならその先への、な先とは距たる儘な断ち接ぎ逸る逸りを接いで接ぎ切れずにも切れ已むしか無い已みの狭みの硬みをさも高みから貫き差し来よう硬みより硬い細みなら細みの細みを厭い翳す捩（よじ）れ拡がり差しそれとも捩れ損ない拡がりを抛り棄てる、さも細み異なりめいた艶なら艶が艶を拒み続けて捩（ねじ）れ逸るしか無い已みの細み異なりへと向き向かう硬みの硬みの内への貫きに酔うかに揺れるそれとも揺れ已むしか無くに、な已みへの接ぎを乞うなら乞う重みそれとも、な重みを貫き低み抜ける細みの微かな光りを柔らかく凍らせた薫りに似た、な薫りを薫らせる軽みへの誘いなら誘いの、な誘いを粗く重重しげに裂くかに溶かし脹らませよう、な脹らまされの上っ面に軽みへの誘いの尽きるかな暗みを塗り溢れ余らせ、にも、な暗みは直ぐに暗みを深める儘に光りを求めるしか無いなら求められる光りは怖ず怖ずとも暗みの重みに虐げられるかに、軽みをそっと渦の始まりに換える光りにも暗みにも背く淡く薄く延び果てなさそうな明るみ、にしろ予め定められたかに、な明るみ自らに眩み散り懸けて独り明るみを棄て守るしか無

い、蔑ろにされる独りな様に虐げられる振りをすれば場違いかに滲み出よう贋の光りなら光り、で無いなら、眩みの延び窮まってその独りは引き裂かれそれとも、な独りな儘に独りでに潰れ崩れ消え現れ直すしか無くにも、な形（なり）ごと浮き晒されよう、な形（なり）を覆う軽みに圧し沈まされ、にも、な圧しを傾き揺さぶる、に圧しと距たり射し合ってだけ輝き鈍る光りを映し含んで溶け脹れ偏る白みそれとも厚みの一つ限りの丸みの切れ目それとも丸みが匿う白みより透け淀む影の襞の深みに偏り暴かれ隠される裂け目に似ても蕩けるような小さ過ぎて大振りかに匂いだけかも知れなさそうな奥まりの、奥まりな儘にも奥まりを断つ振りで尖り強張りながら熱く流れ淀み艶めき晒され静まり沈み裂け浮き捩れながらも、なり様の薫りでしか無さを偽り、な偽りをも欺いて汚さを曝し尽くしての清げにも捩れ尖り直し奥まる形（なり）を形（なり）な儘に晒し蹌踉めきそれとも、な蹌踉めきばかりが艶めくようなら、な艶めきに、な形（なり）は自らを委ね消そう兆しに埋もれ薫っては、な薫りを重みへと偏らせ、な偏りにばかり凭り掛かるしか無いなら形（なり）は形（なり）異なるのも儘ならず失せるしか無かろうかにも、な失せるしか無さの無さ已む先へ身を投げ映す形（なり）なりに、な変わり身へと身を巻き砕かれ呑まれ戻されよう重げな兆しに埋もれ懸け、な事ではそれはほんの微かな災いかにも、な兆しを悉くふわりと吸い上げ含んで圧し殺し懸かる奥まりは、な奥まりな形（なり）

からも疾っくに奥まり抜かれ、な形（なり）は筒抜けで、にも、尚奥まりか奥まり已んだかの有るか無いか知れない振りを閉ざし開く境に留まり懸け渡ろうと有るか無いかな重みに沿う粘りの厚みの無さに脅され、な無さを繋ぎ止められもせず、に潰し裂かれ、無かったかも知れない境の痕の痕とも知れない、な知れ無さを強く吸い寄せるような有りもしなさそうな虚しさへ置き換えたか置き換え損なって、な虚しさとの距たりとさも絡み踊り続けるしか無さそうな滑るような熱さそれとも直ぐにも透け失せそうな厚みを揺さぶり転がすその隠され た影に操られるかな薄みそれとも細みの已み難さばかりが束ねられ粘り擦り延ばされ、にも、な擦り延ばされの先へと送り棄てられよう粘りが粘り異なり已まないなら、な已ま無さに傷められ続け潰れ掛けては荒荒しく狭み已まない襞なら襞の影を焦がれる襞異なりが映し移す、その為の影を塞ぎ潰す色なら色を滲み沈ませる、にも、な色をその重みに呑まれるしか無くに剥き出されよう内向き過ぎるなら円みを毀すしか無い円みの暗いばかりな兆し、なので円み異なりの塊としか外へ向けては働かない厚みなら厚みの自らを揺さぶり裂き荒ぶらせる、失せた外の果ての無さに擬えられる冷たさに断たれてそっと消えるかに脹れ已まない渦の渦異なりを逐い裂かれ纏め、逐われ鈍り偏り、な偏りの重みばかりへ逃げ込みたそうな荒ぶり硬い限りに触れるものを全て傷付け已まないような古い渦の痕の欠片の張り転がっては転がる先に映り失せて失せ異なる

儘に、な異なりを異なりな儘に異なり直させる刺刺しい限りな薫りそれとも薫りが匿う硬さの噴き出す眩みの眩みへの覗き込み、な眩みの眩み交わるしか無い激しい行き交いに傷み圧され沈み凍らされ、に凍らされる程に熱い柔らかみに滲み込まれながらも、な、さも自らに、背き添い堕とされる眩みへの覗き込みの底を底無しに貫き焦がし眩み直させる、自らの重みの向きに歪む円みなら円みは予め円みに拒まれようなら、な拒みとの距たりを測ってその拒みを拒み失せさせようと眩み直す、にも、な直しに眩んで已まない円みの円みな向きへの徴を、な向きとは裏向きに集めようとする僅かずつかに拡がり継がれて傾ぐそれとも傾ぎ異なる異なりの向く向きの重みに引き摺られ高ぶる歪む限りな円みな形（なり）を翳し輝かし頽れ鈍らせ貫かせる静けさの薄い限りな薄みが引き延ばし損なう、恐らくはどの向きへも独り向き向かわない向きの喧しく騒ぎ脹らみ懸ける裏を抉られた丸みの薄い限りな欠片かな、向きを変え損ない続けて厚みの鋭さを暗く輝かせ固まる硬い偏りなら偏りは偏り倦ねる向きへ向かおう尖った重みに圧し延ばされ、な延ばされに遅れるしか無い狂い無く二つに分け隔てられ並び弱まる細まりの揺らぎそれとも揺らぎ損ないをその影に吐き凝らせる薄みの消え現れが描きたげな、な様の閉ざされた外からの高みの明るみに侵され楽しむらしい薫りを溢れさせては穢し棄てる、な様を避けて薄い限りな虚ろへ墜ちるしか無い裏へ回り込もうと、な兆しを匂わせ狂わせる円みへの

乞い焦がれそれとも焦がれ弱まりと弱まりが匿う強さに照り映える薄まり、な薄まりの薄みへ映り移る外からの明るみさえ円みに換え、に換え眩まり逸れ高まり鈍る鈍りの高まりを凌ぐ奥まりが奥まりから距たるかな重い限りな虚ろに脹れ翳む厚みに満ち引く響きの、映り溜まる柔らかみそれとも、な柔らかみの端を裂いて弛み狭まり拡げられる、虚ろ異なりな穴を数え切れず開けた虚みへ突き抜けるかな窪まりの淡い暗みの淡みが暗みを窄ませては閉ざし開くろい無く小さ振る深みなり深みの消え映えるかな尖り踊り、に、な尖り踊りか狂揺られ食み出し惜しむ丸い限りに平らかな浸み燻みは、燻み沈み輝く儘では遠過ぎて穢れ果てたかな円みを呼び映そうかに重たげな震えを震えに重ねに重ね、な重ねの薄みを幾重にも塗り込めた暗みの厚み砕けかな艶を零し零し脹れる振りをさも微かにも揺らし重ね已まない、にも、な已ま無さの厚みの内の虚ろ擬きにも虚ろを穢しに懸かる浸み燻みに満ち閉ざされるなら閉ざされ脹らみ懸けて平らか染みた向きの異なる丸みの幾つかの継ぎ接ぎめいた、偽の影の組み合わせを撫で摩る艶を延ばすかな厚みの柔らかみへの浸み沈みの滞り振りを擦り抜けよう、かな虚ろの重みを向き逸れる限りに襞な形（なり）を装い倦ねて頑なに自らを拒む振りで変わり続けようと焦がれる、な焦がれ已ま無さの激しさの、襞な形（なり）が衰え已む筈の僅かな淡い染みかな既に暈け過ぎて姿も失せた暗みへの浸み通りそれとも撥ね返されが圧し拡げ懸ける弓形なら弓形、で

無いなら平たく狭まり丸まり上向きに尖り延びる細い限りな刺し貫きの、その細みの細みのせいで独り虚ろすら上澄みを掬うかに剥がし棄てようかに捩れ戻って輪を描き懸け逸る平たい狭みからの浮き昇りに映り粘る襞の頽れに窄み込もうと硬みを増すなだらかに続き途切れる震えなら震えの、な震えを震わせる、震えの外の奥深げな柔らかみの裏へ回り込もうかに強張り砕けて、切り取られ萎びた影に似た薄い限りな厚みの刺刺しい奥を更にその奥を探ろうとするに違いない曲がり拗りの粘り強く周りのほんの微かな震えさえ纏わり付かせようとする狭い限りな暗みのその先の見えない限りな明るみを切り裂こうとでも焦るような細みへの細みに擬え尖り貫き已まない、にしろ、何を貫くも無いと、な無さに浸かり込むかに予め知れてよう、古び褪せた暗みへと穢れを纏って怖ず怖ずと引き下がり籠もろうと縮まるしかない眩みの暈け拡がる狭みは直ぐに、な狭みに映る穢れたからには細みとしか偏り翳されない贋の明るみの競り乱れを細い限りに圧し詰め尖らせたらしい、襞を剥がれ乾涸らびてしか無い筈の柔らかみの柔らかみへの眩み返しそれとも眩み刺し抜き、にも、その狭みに苦しげに眩み已むしか無くに、な無くになの中の丸みを厭い棄て懸かり、にも眩みな儘に眩み閉ざされ損ない傾ぐ、な閉ざされ損ないの外へと震えを纏って眩み映り移ろうと足掻くか、な映り移りから移り逸れるしか無かろう映り際のさも贋を装うかな艶の切り分けられそれとも、な切り分けられた艶の競い軋む逃げる

ばかりな徴の薫りの徴擬きが匿う明るみの裏返りかな眩みの眩み已みでは眩みな儘に已み果てよう、な果てへ逃げ紛わし丸まり軛む已みの已み異なりへと接ぎ映るしか無さそうに内へとだけ震えても、な内は内で、な震えに抗うしか無くにも、な内が内を拒むかに、襞な形（なり）を捩れ已まずに硬みの砕け増されるばかりな、丸まり軛みから滲み淀む影の重みに擬えるかに内に拒まれた内に巣くって内を貫き高める丸まり軛み已みは立ち塞がりそれとも透け失せる振りを翳し凝らせ、な儘に穢れなく、な已みを貫き開くなら却って已みを已ませようとして已みの深みから持ち上がる重みが匿う柔らかみに遠い限りの穢れを映そうと、な穢れが内に匿う虚ろなら虚ろ、で無いなら丸まり軛んで強張り溶け脹れ懸ける痕から剥がれ寄せる襞な形（なり）を装う途切れ勝ちな、に已みを已み異ならせようとする、細かな軛みの欠片を散らし果て凍らせて震える透け濁る厚みを剥き出させ、に、な厚みに呑まれ懸けようかに已みは、その深みの重みの柔らかみを失って、な失われの硬みを拡がらせるばかりな内へ墜ちる振りに凍り細まるしか無くに尖り下り暗む更に下へと、な暗みの重みを求めて偏りそれとも偏り尽きて下る真下を覗き細まり果てては暗みまで失い、にも、な失いの底なら底を抜き破り下って唯延び継がれる限りな果ての無い無さを頼りに暗み窮まる、な窮まりの輝くしか無い滑（ぬめ）るような細みなら細みは直ぐに震え尽き失せれば透け散る限りな失せ痕に映り頽れる、外向きに押し出

される程に、な外を向かせる、外を向いてこそ内向きに透け渡される突っ張りめいた強さの明るい艶なら艶の、その内での艶と艶異なりとの差し替わり続けの頑なに内を向く、な内の滑（ぬめ）り固まり懸け溶け、な溶けの、虚ろでさえ無いと知れてこそ内な内へ、温み砕けるかに浸み拡がり白み揺れ、にも、な揺れを常に凍らせ流し淀ませ、な流し淀ませに帯びる丸みを切り繋げ離し接いでは、な切り繋げ離し接ぎに淡い限りな影を塗（まぶ）し薄ませ振らせ、な薄ませ振らされの唯なだらかに偏り損なって軽みを延び拡げさせる有るか無いかの明るみの明るみにしては影ばかりな継ぎ接ぎの、それをそう擬えるに違いない継ぎ接ぎ異なる形（なり）の変わり尽きない奥まりなら奥まりの、な奥まりを拡げ保って僅かずつ穢し燻ませる艶の温かみそれとも、な温かみ異なりの偏り已まない、にも、な已ま無さから途切れ途切れに零れる重さの硬さが自らを揺らめかし喜んで、喜び固まるなら固まるで、な固まりも、な儘に揺らめかされるしか無くに、それを揺らめかすらしいそれと揺らめかし異なりとの距たりを、な距たりに映り移ろう、それともそう望まれる汚れた奥まりの形（なり）の、な形（なり）とは必ず異なる、にも、に異なり已むしか無い已みの穢れそれとも穢れ無さの清かさに行き果てる已ま無さ、ならそれは已みでも有るしか無くに、な已みの内に匿われるそれとも、な匿われに映り浸り切り込もうとされる切れ切れにされた丸みとの異なりを求めるかな繋がれ、それとも繋がれ已

みが已ませる丸み異なりへ映り込もうとするだけの丸みの温かみの透ける厚みが、な透けを躍らせるかに襞ののっぺりとした淡い色の抜けに似た影かを刻む、な刻み振りが僅かずつでも重みを纏えば纏ったで、な形（なり）を脱ぎ棄てるしか無くにも棄て倦ね、それとも、な倦ねる振り損ないだけを振り翳し鈍り、な鈍りに、な形（なり）の已ま無さを已ませて丸みの裏へでも逃げ込もうとする微かに丸みを帯びる平らかさが覆い被さって行こう構えなら構えは、な儘に自ら已んで已み果てられずに丸みの軽い限りな一欠片を含みたいかな揺らぎの為す儘にも、な儘から自ずと抜け出られよう明るみを含むと知れ、にも、な明るみの現れる筈も無さに痺れ侵され独り尖り已んで捩れ続けるしか無い細みの暗みを帯びてる沈み懸けるな確かな厚みによって撤かれ果てる、已み果てて再び甦らない丸みの痕に降り溜まろう眩みの已ま無さの已みだけを貫ける限りな、に、なら限りなだけの、なそれがそれの姿の現れるなり消えるなりな様を微かな震えの温みとでも知れるなら知れるで、な知れる他に何を知れようさも知れないかなら、な知れ無さまで巻き込んで知られ已み、にも、でこそ、な已みに知れるそれはその知れる儘かな望みの頽れるしか無くにも、な頽れを頽れさせて已まない、な已ま無さを已ま無さ異なり続けようさも平らかな明るみの淡く儚げな噴き上がり已みは、その先の更に先に叛く濁りをその叛きより重く透かしたいかに透け極まり躍り静まっては、な躍り静まる姿を内へ匿うかに滑らかに変え

続けそれとも、な変え続けの何も変わらなさの鈍く脹れる脹れを粘粘と吐くしか無くに躍り静まり異なろうと逸るかに異なれる筈の重みの温みの窄まり果てが現す深みをなぞる重みの徴にのめり込もうかな振りを搾り出すかに擡げ懸け、に、噴き上がり已み明るみ已んでも明るみは、なのめり込みに吸い呑まれ懸ける兆しにさえ拉がれ砕かれ撤かれれば却って躍り静まり異なりを明るませようかにも、に明るみをそっくり残すせいで明るみ已めば已むで、な已みは明るみをその深みの底まで映し抉っては、な抉りの明るみに侵されて失せた底を探し損ねるかに細み惑う形（なり）を真下へとだけ晒すらしい固まった襞の浅みな限りかな脹らみそれとも平らか過ぎて翳りの淡い限りな横滑り擬きに傾げ損ない輪を描き懸け偏り縮み尖って、それ限りな真下を探りたい振りを振り翳す滑らか過ぎて匂い展べられない匂いの乾涸らびた色の跡にでも近付こうと更に細みを細ませ止まり、にも、な細みなど細みの先に弾き潰されようなら細みは襞に換わろうかな形（なり）を淡く沈ませ重鋭く浮かせ彫り捩れて捩れの真ん中が細み閉じる影と探り当てられればその探り当てた深みの痕かな、な痕で無いにしろ細みの失せた痕には違いないなら細みを埋め込んでよう薫りを捩れに浸み刻み鈍って、に拠る彫りを失せた細みの周りに巡らせ、にも、に依って真ん中は捩れを剥ぎ取られるしか無く唯裸を偽り擦れる真ん中では行き場も無さげに乾き果てれば湿りへの渇きを映し浸み崩し彫り回り、な回り懸けの跡が描き

損なう丸みの欠片の幾つかが接がれ並び崩れる偏りなら偏り、で無いならやはり贋の裸の真ん中な儘な薫りなら薫りの酷い苦さに閉ざされて棘棘と丸まり回り逸る、な回り逸りを薫りの奥に匿いたいなら匿えたろうかな平らかに丸みを盛る厚みなら厚み、で無いなら薫りな限りな薄みの向きの定まらない脹らみの接がれ巡って、な巡りの内向きへの果て無さげな艶なら艶を薫りに浸み貫かせ揺らぎ白む翳りと翳り已みの失せ痕それとも、な痕も無い無さへと脹れ凝って影を丸まらせながらその姿の硬みへ閉ざされよう、な閉ざされの傾きの向きの穢れから抉られ映り濁り開き已む、にも、な映り濁りの高みと低みに引き伸ばされ懸けようかにも、それよりは高みと低みを拒んでその間の常に脹れようと凋む柔らかみを蕩かせながら翳らせ、な翳らされに圧されて昇り拡がる冷たさの薄みに乗り揺らぐ揺らぎの厚みの斑な拡がり偏りが描き消し汚す、な消され汚されに凋む徴を繋げ断ち流しては、な流れの暗みの溶け傾れの円みなら円み、で無いなら狭みの硬さが映し拡げる、円みを拒む距たりの重さが齎す偏りの、な距たりを潜り貫くかな繋がりの、偏りの重さに促される、な繋がりの縁の延び眩みそれとも、な眩みが向き向かう細みの為に設えられようかな奥まりそれとも、な奥まり已みの自らを噴き散らす透けの溢れ頽れそれとも、な已みの大まか過ぎれば濃やか過ぎる暗みの幾つもの欠片が蕩け偏り固まり懸けては、な様を撫で艶めかすそれとも、な艶めかせを操るかな同じ二つの煌めきの距たり

の僅かにしろ白みに似て絶えない揺らめきの重みを帯過ぎる細みを望む流れならに流れの、その傍らの有るか無いかの円みを向く振りに囚われ傾ぐ欠片かに尖った硬みの、な硬みがその奥に隠し拡げ穢す、穢れ已む程に穢れ果てない眩みそっくりな煌めきを匿い頽れさせる、唯奥まりだけを映した見窄らしい平らかさのその為だけの平らか過ぎて透ける隠るしかない重げな流れの、止まり淀めば凍り濁るしか無くも濁り透けて、な透けを汚す限りに汚す狭みを誘い閉ざし込んで棘を継ぎ刺し交わらせるかに腐らせ保つかな鈍みを独り舞わせ已ませては、な已みの隅が隅を映し進むばかりに、にも、な映し進みの常に円み尖ろう向きばかりが、な已みの隅から噴き逸れ上がり鈍って、な鈍りの虚ろな透けに満ちた厚みそれとも淡い暗みが、な已みを破り裂こう勢いの眩みの向きを数知れず突き向かい放てば放つ程に、一処に柔らか過ぎれば冷た過ぎる影な形（なり）を裏へ向けて苦苦しげに脅すかに煌めく、な一処と距たり拗り低まる白みを塗した平らかさの丸まりの滑らかな継ぎ抜きめいた翳りそれとも翳りの上辺限りに届かない翳り已みの窪まり脹らむ柔らかみに映る、乱れる筈の無い円みの潰れ重なる乱れそれとも乱れへの随う向きの低みめく叛きかな、な弱まる限りな乱れの艶めきの磨き満たされた欠片の互いへの行き過ぎ鈍り戻る侵し合いが湿らせ鈍らせる鈍りの重みの流れ偏り、にも、な偏りを戻し惑わすそれとも惑わし已んで見窄らしく惑わし尽きなさげに平らかな丸まりの噴き上がる様を塗り

重ね固め浮かせては淡く沈み褪せるかな低み振りを纏うかに薄く、薄い程に硬そうに引き延ばされ濁って逃れようのない深みの現れ消えかな奥まりそれとも奥まり擬きな閉じるしか無い翳りの、そのふわりと数知れず昇り舞う細みの乱れから搾られ滴る尖り並び舞う艶めきとその薫りの断ち切られ、にしろ、な断ち切られの古びた形（なり）の捩れるしか無くに奥まり狭み直す、にも、な狭みの奥を拡げ明るませよう独りでな揺らぎの湿りを拒んで、な拒みの重みに染み入り損なう、な損ないを貫く限りの向きなら向きの深みなら深みを深み異ならせる途切れ途切れにも粘りを切り繫げ、にも繫がり送り込まれる眩みの狭みの跳ね返りを回しずらす、かにも、予め、な回しずらしに眩みは自ずと溢れる程に蓄えられ潰され窮まって窮まり凍えるなら、な凍えに映り移って已まない震えの狂い無く触れられる狭みは、確か過ぎるなら震えを厭い拒み、にも、な拒みを嬉しげに舐め静まらせ溶かし泥む儘に横たえよう、震えの内に震え逸り滑る翳りに傾いで彫り極められめく鈍り貫かれなら貫かれの、触れられる狭みを拒み映す明るみの硬み振りの振り尽きない断ち昇り脹れて重みを増す程に厚みの蕩けるような柔らかみ、で無いなら暗みの静まり逸る奥へと向き滑り丸まる埋もれ様から薫る燻み艶めくならその艶めきを消す淡く滞り揺らされる貫かれの、な貫かれの内に匿われて丸み伸び消え尽きない脹れる限りな細みと硬みの接ぎ離れ衝き合う互いへの映り惑いが導き寄せ穢す狂い無い乱れ尽き無さば

かりが醜く溶け爛れる虚ろめいた深みを湧き出す翳りに擬え焦がれようかな、な焦がれとの距たり丸まりが暗ませる、な丸まりごとその奥へ滑り消え現れる僅かな隙の細みな限りな裏返りへの兆しそれとも、な裏返り独りが裏返りの奥への捲れ反り上がるな形（なり）の僅かずつな高みへと拡がり尽きない明明と狭まり窮まり弾けり窒がり振りの衝き笑い砕けるような直ぐにも已もう繰り返しの眩み逸る、ほぼ真上への円み傾ぎ損ないい艶めく厚みなら厚みのたっぷりとして翳り一つ無い輝きの囲い込まれが震わせ現そう穢れなら穢れの乱れ纏まりが望む円みへの貫きとその貫き已みが齎そう円み已みの奥の切り刻まれ尽くされるしか無いかな虚ろの痕は独り虚ろへみえ煌めき延べられるなら、な消えの現れ燻む縁から翳りは濃やかな傾きを刻か滲ませ重ね、にも、濃やか過ぎよう滲ませ重ねでは翳りの傾きは溶け浄め暈なされて小さな柔らかみだけの僅かな丸みを翳らす平らかな狭みへ換わり逸るなら換わり損ない懸ける向きへ向く剥き出しの一振りな勢いの狂い無く眩む細みそれとも細みの暗みのせいで細みが失う眩みの、円み已みの奥へか映るのを乞う揺らめきの窒がりの乱れは、乱れな限り尽きない儘に消え懸かりそうにも細みの明るみへ行き果てるしか無くに乱れ窮まろう様に縮み固まる徴（しるし）かな失われた眩みの失われ已みが已みに滲み、なら已みを侵し貫いて、にも、な貫きと貫き異なりとが組み交じり窮まれば窮まるで窮まり抜け已むしか無い、円み已みの奥を映すか映し消して

円みごと濃やかな眩みへとでも頽れ放たれよう伏せられ翳された窪まりの偏り高まり延びる形（なり）の円み已みに倣う硬みの粉粉にされた撤き散らされの重みの失せ戻されにさも怖怖とも付け込む淡い限りに触れられる眩みの厚みに換わる褪せ果てて内は軽みな虚ろの縮まりに満ち、な軽みに閉ざされ侵される内の外を向き暈ける奥まりなら奥まりの鈍い程な艶めきを色も無く汚げに隠らせる一つ限りな徴を隙無く纏い固められ動き已まない隅隅まで丸みばかりな虚ろの細みへ映り翳されれば、な細みは、そうして粘り剥がれて淡い限りに浮き消え現れる窒がれの乱れに誘われその重みにぶれるかに、な細みに備わる一つ限りな虚ろの奥まりの已まない貫かれを呑み乱し、な儘な形（なり）をそれへ圧し被さる艶めく奥まりへ、な奥まりを傷付けるかに濃やか振る程に激しく突き揺らして、更に已まない貫かれに、な貫かれを凝り溺れさせ已まずに揺れ、な揺れを磨き暈かす、細みの内に匿われた明るみを明るませようかな微かに覗いては遮られる汚れ輝く高みに尖り曇る歪みに映された縮み懸ける静けさの薄い隅との平らかな距たりに閉ざされよう厚みな限りな形（なり）で柔らかく震えるしか無くに薫り淀み儚む振りの音色を吐き繫ぐなら、な様ごと音色の濁って見えない艶の艶めきに破り棄てられる色を暗みの塞がりに換えて滲み流し拡げ固め、にも、な暗みの凋んで届かない低過ぎる白みと翳りの混じり退け合う鬟の乱れ舞うそれとも潰れ圧される上で濁る程に艶を誇り光らせ、その更に濁

れば艶は輝きを粘り増し剥がし崩し、な崩れの偏りの鮮やかさが艶を覆い越えれば、その艶の裏には唯有る儘に有るしか無いかに偏りを弛む限りに弛ませて、な弛みの上辺から薄く弾け留まり窮まり頑なに眩みな限りの眩みを翳らせ凝り輝かせ震わせ、な震えの尖り匂う柔らかみを砕き匂わせ直し放って粘粘と汚し浄め練られる、な汚れだけが塗り拡げられるなら狭い限りに拡げられ果てそれとも果て無さの幾つか艶の砕け溶けたら色を滲ませ違え透け消える徴の立ち塞がりの上を向こうとする捩れの厚みに映り移り就く濃く重い奥まりの脹らみかを歪み伸ばして黙る口のように殆ど閉じた裂け目の何も無かったかに丸丸と開いて照り凍り固められた翳りを圧し詰め揺るがせる、な裂け目を濁らせ縁取る翳り異なりの薄く震え拡がる拡がりの円みの欠片へ窄まりたそうにも、な円みの欠片への向きこそ断ちたい翳り異なり自らの円みを削られた欠片かな輝き割れ縮む眩み異なりの尚も縮み已まずに、にも、な已ま無さは殖えに殖え盛（さか）って眩みを内へ縮め脹らせ、に已ま無さが脹れ窮まれば縮み異なるしか無い震え異なりは、翳りを圧し詰め已まない裂け目の奥を狙い逸り濁るかに眩みをさも密かに縁取り翳りそう、な翳しの縁から縁を迷い舞い巻いて消え流れ光り崩れ回り固まり浮く透け窮まりなら透け窮まりを追い拒み違えて、な違えの狂い無く透けるしか無い濁りの厚みが擲ち散らす透けと透けの接ぎ繋がりならの繋がりの粘る形（なり）を重ね滴らせ損なうかにも、な形（なり）まで異ならせ

ずには措かない震え已ま無さの徴の湧き尖って眩みを貫こうとする、な様を暗みへ裏向け消し隠らせる明るみの熱く切り立つような薄みの透けを刻み集わせ、透けさえ濁らせる淡く清かな逸り鈍る煌めきを流し延ばし巡らせては、な巡らせが向く向きの偏っては戻る脹らみそれとも、な脹らみを潰し続ける、衝き上げ傾げられる硬みと柔らかみの触れ距たる透けと透け貫き損なうなら透けごと貫かれる向きを拒み消す向きなら向き已む、な已みの硬みばかり溶けて柔らかみの硬く透け損なう内からの圧され薄まりそれとも圧され薄まり異なりに流され翳され懸けて丸みを硬く帯びては、な丸みを削り已まない、明るみなら明るみが映し透かす、どちらへも向き已む向きで無い向きの爛れ繰られるしか無い触れ距たりの明るみに浸み抜かれ已まない、何の丸みも呑み飽きなさそうな明るみの乱れそれとも遊び傾ぎ鈍って乱れ遊び変わり回る、な外からの兆しとの距たりを乞い窒がる、さも一つ限りかに触れ距たり已んで、（二〇二三年六月二十三日）

（な已みだけを眩ませる…）

な已みだけを眩ませる眩みの隠り鈍る煌めきと已みとの距たりは、圧し偏りに傾ぐ暗み滲んでは深みめく冴えの半ば開かれ乾き抉れる形（なり）の内を怖ず怖ずと差し現して軽みの脱け殻かに響き已まない虚ろかな重みを籠めた厚みを薫らせ、に、な薫りの厚みの僅かに遠くと重くとに並び裂け懸かり薄みを集め消す限りに脹れ果て損なうしか無い無さが引き込む重みに被さる艶めく震えなら震えの均しく発ち奥まるのは照らし定められたかで、な奥まりを奥まりごと睨め避けるかに白み翳み敷かれる薄暈け褪せ窪む低みより低い染みなら染みを狭め拡げ尽きないかに撓ませ延ばし、にも、な撓ませごと明るませられる弛みに疾っくに浸り圧されてよう形（なり）からの湿るような鈍みを含む翳りの幾つか組み交わる淡く平たい輪の巡り頽れる度に暈け昇る光り湿りめきの異なりの褪せ頽れる翳みへの映されを途切れ途切れにも重ね接ぎ直しては熏（くゆ）らそう浸り圧される音擬きならその音に擬えられたそれの籠もる様かな忽ちに見窄らしく重ね接がれ逸っては曇らされ均される穢れそれとも穢れ失せの途切れ絶たれそれとも展べ繋ぎは、狭み窮まり已んだ已みに尖り丸まり刻まれ続けて声を断ち垂らすかな細みな限りな厚みを圧し翳し揺らし、にも、な揺らせの鋭過ぎれば小さ振って曇り映え尖るしか無い、汚げな贋の臭いを圧し詰めたろう奥まりの行き止まりに転がり据えられる閉ざされ脹れた丸みの鋭い影の誑かされたかりにぶつ切りなり深み擬きに尖り撓むのなら、そうして、な様の撓みへの

映り移りは溜まり逸って淡く低まり消え鈍り、な消え鈍りを拠り処に凝（こご）り笑うしか無い鈍さを疾っくに抉られてよう、な儘に殖え映え詰められ流れ向かいそれとも、な流れ向かいは直ぐに向きから逸れ翳もうなら、なそれ自らから距たり墜ち窮まり振り薄まっては、な墜ちる酷い遅さの暗みからの照らされを乞う狭い限りに拡がり傾ぐ厚みの籠もり果てたかな虚ろめいた平らかさの脹らみ翳るなら翳る、にも、な翳りな儘に翳り已む限りに翳りな、なあからさまに裏向きかな明るみを迎え塞がる狭みの内から朽ち湧き昇り現れ消される僅かにも穢れ過ぎてよう狭みの粗さが煌めかせ押し毀す狭みから外へ籠もり項垂れ墜ちる独り鋭さの、暗みに溜まり翳された穢れに断たれ丸まり傾ぐしか無くに、な傾ぎの窄もうと力むかな翳りに覆われ剥げ、に、な独りに濡れるかに丸丸と阻まれる、円みから擦（こす）られ獲ったかな明るみの這い立ち過（よ）ぎろう常に偏りを匿い晒し展べ高まらせて斜めに途切れ已んで逸り鈍る煌めき限りの薄まりは、な薄まり窮まろうそれとも窮まりに抗おうと消えようの無い形（なり）に順う確かな、確かなら必ず狂ってよう重みの虚ろかな翳り異なりそれとも、な翳り異なり已みが散らし舐めようかな、そっと墜ちよう墜ちようと、なそっとを密かに暗ませ傾ぎ逸る高みからの偏り眩む延び断たれの均しさそれとも已まなかろう均しさ異なりの硬み凝る円みの冴え放たれなら放たれ、で無いなら、な放たれの隈鈍る速み振りが走らせ已ませる、な已みからの舞い淀みを

強いられようかに溶け逸る、な逸りごと頽れては、な頽れに混じり溶ける、な、その白暗み輝きとの距たりが暗みを鈍らせる微かにも現れ沈んで消え昇らない円みを映してそうにも僅かずつ切れ込み逸れ泥む、柔らかみめいて狂い無く消え渡され架かる重み異なりそれとも、な異なりを匿い窒ぐその先の先の無さが兆す、それ限りに窄まり眩んで、それ限りで無くに眩み違えるなら違えるで、な違えの在処を翳りで標そう形（なり）なら形（なり）を彫り失せさせるかに、な失せさせの彫りに叛く噴き出しかな、にも、唯眩みを拒んで眩む限りに失せさせを翳し蔑もう、楽しげな叛きを接ぎ舞わせ溶かそう温かみそれとも、な接ぎ舞わせが溶かされを拒もうかに盛（さか）り静まって接ぎ乱れをさも無さの兆しに順おうかに描き絡ませ損ない、な損ない痕を痕の内の窪まる底より下からの、上と下との距たりに換えようかに映え昇り圧し明るませる、な明るませを放ち撒き薄まらせる均しさの煌めきなら均しさの均しさ限りの強さは躍り已んで、な已みの深みに滲むかな撓りが撓りを撓り接ぎ磨いて磨き已む已みの、丸みを倣うしかしない驕るように照り窄まり満ちる構えに倦んでそうな、さも邪に暈け軽み撫でるかな震えを匿い滲ませようか、な形（なり）の流れ鈍る鈍みの平らかさそれとも平らか異なるなら、な異なりを反り伏せる色に籠もらせ晒そう厚みなら厚みが色を薄みに擬え逸って厚みの異なりとの距たりを接ぎ乱し、にも、な乱れは自ずと冴え映えるかそれとも、唯色の反り伏せが噴かし固

め懸かる濁りの重みばかりが暗みに馴染み逸れて弾けそうに張り凝り窒がるなら窒がるで、な窒がりは厚みの異なりとの距たりにはあっさり拒まれよう、かに褪せるせるかにも色はその失せを裏向けるかに明明と暗く冴え沈み、その暗過ぎる明るみが色の反り伏せに狂い無く沿い剥がれ躍り、に躍り已む已みが已みの先に已まない向きを示し剥き開こうなら、それで、な重く窒がるしか無い開かれから眩み返される、向かい来るもう一つの躍り已みそれとも唯同じ躍り已みがそっくり映し移るだけかな映し移りに食い込み捻れる緊い限りな躍り已みそのものに違いない深過ぎるなら凍る石のように尖り続けるしか無い、映り移りに張り付いて動かない薫りなら薫りが纏う、薫りを透かし切って薫りの暗さの先の薫りさえ届かない眩みの恐らくは透けな限り躍り已まなかろう躍りの硬みを圧し詰め白ませ翳らせ脹れ裂き纏めた必ず触れられる平らかさの煌めきの、已みようのない接ぎ重みそれとも乱れ並び拉がれ懸かる軽み、それとも重みと軽みの忘れられに拠って防がれ醒め冷やされる晴れやかさが軽みだけを潰し重みを淡い奥まりに換え開き、に開かれる弾みに防がれた醒めに透けを齎し現れ忘れられよう、な忘れられだけを匿い撓ませ偏らせるなら、な偏り限りが薄く狭まり硬みを含ませ煌めき暈かし、にも、な儘では有り得なくて揺らぎ頽れよう徴の直ぐに埋まる程に降り懸かるかな温かみの痺れが痺れを痺れさせ泥み、な痺れさせられを独り剥かれるように抜けて痺れな儘な重みに貫かれそれ

とも、な貫かれがその儘に重みの殻を被るかに、な重みより重いなら重過ぎる重みを軽みに換えるしか無くに、な無さを痺れさせられの暈け翳む向きへ撒き溶かす淡い限りに淡さを窮め薫らせて独り粘り擦（す）れる厚みに透け濁る暗みを擦（なす）り付ける明るみなら明るみは明るみより向こうに明るみ破られての明るみ鈍りで、な破れ目に覗く尖り奥まり尽きないかな薄みそれとも、薄みに過ぎるなら酷い重みの眩みが幅を利かし偽るしか無い、明るみへも眩みへも接がれ窒がろう塞がりの眩みに満たされ溢れ向かう眩みの断たれ痕の溶け頽れに違いない、な眩みの何処にも無さに擬えられた凋みたげな脹らみそれとも、な脹らみに擬えられ尽きる滑るしか無さ振り舞い倦ねる硬みな躍り已みは、な已みのせいで向きを変えられない向きへなら向きの凋み重り凝る、な重り凝りとの繋がりの隅かな独り醒めた流れ向かいを棄て翳せよう接ぎ乱れる撓みに映りと溶け損なう、裏返り切ろうとして先に続く先の無さへ擦（こす）れ曲がり墜ち懸かる硬みへの渇きを撥ね匿おう熱いのなら平たい小さ過ぎる窪まりの陰を躍り暈かす、傾ぎ尽きれば匿われ剥かれ光る小さ振りが暗みの柔らかみへと動かされる、な動かされに偏るその偏りの真っ直ぐな、棘棘と粒立ち揺れる陰の厚みそれとも淡い限りな触れられる、触れられる程に、な儘に散り乱れ差し渡らさせられるかな重み振りは、嚙ませ寄せられた陰の断たれ已まない軽い限りなら厚みを、深みの切れ込み交わり組み固まり隠る斜交いかな陰の痕なら陰より

陰を翳し戦がせ集まらせて静まる、な戦がせを剥き窮めれば抜けようもない煌めきの束の捩れかに固まり鈍る均しさを撫で摩ろうかな曲がるしか無くに僅かな、匂いを断ち逸る振りに逸る匂いの色なら色、で無いなら弛め窮められた色褪せの濁りなら濁りは濁り廃れ放たれ、な鈍りの連なりのより狂い無く軽軽と繋がりたいかな乾き傷む縁から縁への溶け煌めく向きの弛い束の濡れ急く失せ痕に薫る小さい限りな澄み渡りを雫のように堕とし失せさせ、な失せさせの磨き縮まり尖り切るしかない、な尖りの翳され の、その先に泡のように揺れ惑うばかりな濁りの狂いそれとも、な濁りの内からの透け窮まりがその先に震わそう眩みな弾け籠もる笑うかに籠もりの眩みな限りな匂いの震えそれとも震え已みが誘い込む陰なら陰のその姿かに滲み抜かれる抜けの戻る程にも反り返るしか無い淡く掠れる激しさの硬みそれとも眩みを撓ませる静かさの引かれ貫かれ損ないがその虚ろな低みからの圧流れ約まりの、な約まりを光らせ浮かせ剥がそう、静かさとの距たりに暗みを流し淀ます偽の光りを偽の儘に光らせて光りの偽りでしか無くに透け濁る粘りでしか無い欠片なら円みの欠片を偽り低まらせよう狭みの狭み已み難い反り剥がれが硬み窮まれば、な窮まりとは距たるしか無くに墜ち明るむかな濁りの平らな塊への通り抜けを誘う、欠片と欠片の欠片で無くなるまで滑らかに接がれる、な接がれを誇り翳す明け眩ませは、暗み窮まれない儘に光りを覆う光りの柔らか過ぎて透け濁る苦みの塊の墜ち懸け留

まり果てる乱れかな冴え殖える鈍みの煌めきの連なりが重みを孕み流れて置き已ませ損なったか已ませ果てたかの境を探す境の見失われかな溶かされ尖りを翳し低まらせ、にも、な溶かされ尖りでは眩み違え頽れる振りに逃げ撥ねるしか無かろう無さの流れの、光りを覆う光りを切り開（あ）ける鋭さの屈められた重みの虚ろが虚ろと均しく混じり滲み反れ傾ぐ奥まりなら奥まりの直ぐに縮れ尽きる縁を、その奥まりとの距たりに暗む輝きへ濡らし放ちたげな偏りで断つなら断ち断てないなら逆さを向くかに偏りを圧し薄め歪ませ、に叛かれた偏りに潰される縁が孕む丸みへの窄まりの厚みを割き撥ねさせるなら撥ねさせるで、な儘に丸みへの窄まり独りが活かし回され、その先なら先を侵し開くしかない無さの鈍みそれとも丸みへの窄まりの延び捩れ平らぐ柔らかみに映る光りを覆う光りの、その光りの僅か下に匿われた軽い限りな重みとの混じり逸る反れ暗みと接がれ溶け擦れ、にも、向きを変え戻し貫いて光りを覆う光りの重みの裏へ濡れるかにぴたりと滑り込む明け眩ませはそうして眩ませ異なれば、な異なりへ自ら硬く伸び強張る儘に、な儘な狭みを拠り処にするしか無い異なりへの貫かされの揺れ戻っては沈み尖り暗みに溶け懸かる小さ振りを消し震わせ、にしろ、な儘に消し震わせは貫かれの現れの舐めるような煌めきの眩みに溶け変わり、にも、溶かされ尖りを翳し低まらせた流れに囚われて変わり異なるしか無くに光りを覆う光りとの距たりに暈け泥む眩みでは、その異なりとの距た

りとの繋がりを暗み偏らせる明明とも細い限りな果てなさを舞い溜めるかに乱
し鈍らせよう、に眩みの明るみを自ら湧き掠めさせ、な儘な重みを虚ろの狭く
偏り切れ込み流れ拡がる奥まりの、それとも、な奥まりの硬く濁る深みを呑み
翳して静かに予め横たわる切れ目の狭みに斥けられた明るみの映り込み已みな
傾ぎ眩みの、傾ぎ眩みな限りな穢れた薫りを詰め濁らせた硬みの明るみ異なり
の欠片な姿への露わな頽れに抛って、にしろ、な頽れは頽れな儘に暗みを引き
摺って明るみ窮まろう軽みに剞り貫かれるかに、な剞り貫かれと擦れみう向き
から圧され撓み異なって、な向きの圧しる誑かすように幾らかだけ飾り粘らせ
翳す低みに強張り裂けて転げ失せ立てようか、な失せのあやふやな少しずつ薄
まる確か過ぎる冷たさを引き継ぐ、均しく混じり逸って転げ来る向きに現れ、
な形︵なり︶の、な形︵なり︶へ向き向かう内向きな薄まりを潰し毀す向きな
ら向きの向き已むしか無い已みの外へ流れ失せる、かにも、失せ現れ、な失せ
現れの奥まりの内より外からの圧され薄まりが孕み寄せる、眩みと明るみの交
わりかな裂け窮まるしか無い静かさなら静かさ異なるしか無い圧され薄まりの
再び翳され張り尖り失せて、な圧され薄まりの内ばかりが外を剥ぎ取られ狂い
異なり固まり窒がるしか無い窒がりを裏返すかに尖り已んで逆さの尖り鈍りを
丸まらせ銜える、にしろ、な銜えは銜え異なりを何処へか映し移し、な移りを
均しく混じり鈍らせたに違いない、かならそれを映した円みなら円みの欠片そ

れともその欠片を少しでも丸まらせる欠片の縁に蓄えられて縁を傷め暈かそう重みなら重み、で無いなら軽みの、隔てられ過ぎた円みを刺し崩す冷た過ぎる煌めきの失せ深まりに覗かれる、それとも、な煌めきの失せ深まりを已ませ凝（こご）らせる、独り触れられる何も無くにも捩れ鈍って重みを隠し流し込んだ細みな限りな、な限りでは細みを抜けて浮き偏る向きへ向き向かう重みと軽みの打ち消し合われて傾ぐ、な、細みを抜けた先の狭みの僅かずつ削り磨き揺れ刻まれる細か過ぎて数え切れない徴の現れ消えは、一つに溶けて一つの陰を搾え映えさせ、冴え殖えるなら殖えるで殖え已むしか無くに徴は虚ろな流れの痕に変えられ頽れ、な痕の窄まり低まり泥む硬みが響かす重みと軽みの狭間の窪まりと窪まりへの撥ね叛きそっくりな揺れの、な揺れを揺らめかせた独り徴が薄い限りに纏い失せた硬みを匿って揺れを丸ごと貫き棄てよう、に貫かれた揺れ異なりを覗き違えて震え鈍り煌めく透け躍る厚みとの狭い限りな丸く歪みたげな距たりを乞う、な歪みたげにも歪めない透けへと誘われ劣るしか無い小さ振る圧し偏りのその裏へばかりな冷たさの蓄えられ窮まり損なうなら損なうで損ない損なうかな低く屈んで薄みに潰され懸ける明るみの、疾っくに暗みを衝き上がらせる暗みより低くに並び倒れる明るみ異なりの根を失ったかな高み

ける、その透けを囲い込むかな透けとの距たりの狂い無い虚ろさは狂い無さと接ぎ損ない乱れて静まる滑り尖り薄まる撓み偏りの、後退りの後を絶たれた形（なり）を独り晒し切らされ惑い已む已みの微かさが傾れ静まる、にも、な已みの透け沈み濁る小ささの尖り震えるせいで、その已みを支え冴えるかな硬みそれとも、な硬みの内から兆し昇る圧され映えは、な映えを穢し映す構え低まる暈けを潰し懸かり已んで、な已みの映えが後退りの後を絶たれた形（なり）へ浸み失せる失せ痕の弛く延び鈍る透かされ昇る向きへ丸みの重みを擦り撫で、な丸みの重みは失せ痕を縦に回そうかに均して揺らぎ散るしか無くに煌めき暗み砕け奥まって奥まりを煌めきの縁へ丸みの重みで繋げ温ませれば、その後を追い剥がされる已みの映えの微かな圧されそれとも、已み薄められる限りに延び鈍りながら窪まり濡れる平たい冷たさの弓形な重みの重みの外を拒む現れ消えに結ばれ墜ちる内へ小さく閉じ割れる空回りの透け柔らかい熱さの真下に匿われ洩れ鈍み光る厚みの失せ懸ける限りな明るみ窄み窮まる消え失せ甦りを囲む眩みそれとも、な眩みを生かし乱し静まらせる丸みからの距たりなら距たりは距たり溶けよう、に乱れ接がれるかな、幾つも向きを切り取り痩せ細ませ狂い無く組み合わせて眩みを砕き奥まらせ、な奥まりの明るさの尖り凍る積み重なりのずれれば、ずれるだけ危うげを楽しみ棄てるかに硬く汚れ煌めく透け柔らかみの淡く丸みを隅まで拒んで真下からの鈍い限りに震える光りを舐め上がら

せる、平らかさに擬えられた煌めきの溶け混じり逸りが走らそう透けの笑うような甘い震えを翳して内への熱さを冷たく包んでこちらとそちらへ開かれ閉じ窒がり透け角張り固まる内なら内に、向き逸れて裂け澄む奥まりを覗かせ拡げる濃い限りな汚れた光りの小さみの、上辺だけ切り刻まれて明明と滑り丸まり流れ突き立てられる低みの匂いの響き渡らされた眩みは、横たわり脹れ刻み損なわれるかな溶け淀む煌めきに溢れ凋み、な凋み溢れ已む先へ墜ちて僅かに撓る細みの高さを虐げるかに捩れ曲がりそれとも捩れるばかりで曲がるのを拒めば裏返り尽きずに唯明るみを追うだけの距たりごとを打ち貫いては距たりと距たりに粘りを偏らせる陰を一つずつ置き昇らせてその撥ね固まる動きを滑らかに作り蕩かし砕いて熱く回し拡げるなら、な陰の裏を見せ巡っては陰の偏りを剥がし翳し、な翳しの間近過ぎる円みなら必ず円み異なり透け薄まる高みに沿う圧し失せ光る眩みなら眩みの差し込まれようそれともずっと旧くから差し込まれた儘かな透けでしか無い微かな一震えを眩みに溶かし光らせよう、に、僅かに斜めへと奥まり昇る眩みの内の明るみを延ばし凍らせ暈かす、円み異なりの陰を浮かばせ砕き白ませる向きへの微かに曲がり穢れる鋭さの逸り鈍る煌めきの厚みを測り損なう低みからの重く透け固まる薫りの凝っと偏り窒がるかに奥まり圧され薄まる先に覗く円みの眩みの独りでに回る形（なり）を凍り貫かせ、穢れを吸い寄せる振りを狭み貫かせて硬く閉じ頽れる痕なら痕を撫で摩り

たいかな細く断ち切られた丸みの欠片を丸みの為だけかに寄せ接ぎ這わせ、陰に呑まれ匿われる振りで奥まりの沈み角張る窪まりに明るみを導き腐らせ、にも、な明るみの洩れないように窒がり透け圧す、狭過ぎれば失せるしか無い円みからの透け圧しを濁り薄ませて幾つもの向きを向かせ熟させ交わり閉ざさせて流す、な、流しの直ぐに絶え換わる換わり際に溶け頽れ、頽れ固まり捩れ、な捩れの直ぐに絶え換わる曲がる角を尖らせ回す、眩みへの向き失せへの延び纏わりの現れ絶え換わりを接ぎ刳り貫いて、な貫きの震えそれとも震えの薫りの渦と渦の断ち切りの翳り鈍りを撫で立て回して低みは陰の反りにか圧され窒がれる狭みを傾ぎ潰し掛けるかにも唯、なり鈍りを貫き挫けようとするる向きは独り切りにその翳り鈍りが含む、向きを幾らでも生み出せる触れられないみの接ぎ乱れる撓み偏りな形（なり）を持て余すかにも切り回し、にしろ、な接ぎ乱ればかりが潰れ泥み互いの上辺の柔らかみを僅かずつ映し移し合いながら斑な逸り鈍る煌めきとその失われの薄みを走らせ狭ませ揺らめかせ已ませ、な已ませの滞りが蕩け懸けて厚み擬きな淡い震えの明るみを微かに丸まり欠かせ現し消して震えを距たる儘に呑むかな隠れた陰の鬟を匿う重みの軽やかな揺れが仄かに燃え翳む色合いの失せと甦りの背き重なりずれるずれの狂い無さを炙り出し、な狂い無さに映り進む狂い無さの奥まりが匿い裂き翳す、尖り反れ浅まり崩れ盛（さか）る厚みの軽みそれとも軽みを薄い限りに砕いた剥き出し

の窒がれの測れない深みをその明るみの内の陰の窒がれの重なりの数として測ろうと急いて流れを切り晒され腐り浮くかに数え切れず尖り裂かれ尖り鈍るなら鈍り尖り色めく狭まりの強いられるかに波立とうとする硬みの柔らか過ぎる偏りの圧し縮み逸りが断たれ断たれ為ながらにも常に繋がり直り、暈け泥む崩れ盛（さか）る厚みな形（なり）に重たげな透けを纏わせ濁らせ、短過ぎる裂け懸ける内向きへなだけの尖り窒がり隠って囲み装われる細かな刻まれを並べ晒し眩ませる狭み至りから接がれ下って小さ振りを翳し翳らせる翳りの淡さの独り流れ煌めく細みの向きを受け拡げられるなら奥まりを匿う僅かにも明らかな偏り、の閉じ鈍る鈍みのふらつく重みを孕み脹らませて光りを隠らす平らかな距たりから弾ける厚みの、削り和らげられて深みからの刺し失せを隙なく詰め現し尽きた痕なら痕の囲み装われる細かな脹ればかりを残し活かし接ごうと断たれる限られた細み振りを限りに、な限りを均しく混ぜ逸（はや）らせるなら、な混ぜ逸（はや）らせの逸（はや）らせ限りな向きなら向きを溶け懸けてだけ虚ろの限られた暗みの姿で受けるしか無くにも、窄まる虚ろに抗い順う限りな荒れ硬み進む脹らみへの静まりは静まりな限りでは静まれないなら、反れ尖りの組み重なりを先へ先へ追うかな動き已みを繰り返し填め窒ぎ破る形（なり）を焦がれる形（なり）を転げ断ち抛り続けては続け損なえば、な損ないの重なりに沈まされるかな剥き出しの尖り回りの回り已まずにも俯きと仰向けの

刺し貫き合う凝り凍る向きなら向きの鈍い限りな砕け果ての激しい短さがその短さを苛み、な苛まれから抜け脹らむ小さい限りな丸みの丸みの影と絡み刺し貫き合い、にも、もう確かな虚ろにあっさり侵されてよう刺し貫きの向きが予め定まっていたようなら硬みから硬みの軽みが撥ね圧し飛ばされる尖り已みの連なりの明らかな先の無さそれとも無さだけが刻まれ続く先の硬み尽きの失せ続けは続く筈も無くにも荒み返り、な返りの狭く平らかな裏を覗かせる偏りの危うさそれとも、な危うさを砕く偏り異なりが惹き傾げ巻き倒れ懸かる平らかさの損なわれ、な平らかさなら平らかさを保つ為の波打ち滑り荒ぶり翳み削られ暈け、な暈けの激しく深みの徴擬きな淡さの撒かれ尽きるかにも深みの徴擬きがその尽きを妨げよう、に何の徴も縮れ溶けたかな滑らかな反り返りそれともも反り返りとまるで異なれば丸丸と抉れ戻り抉られ、にも、な丸丸とした抉れこそ丸みの影が削られるかに削られに抗うかに尖り脹れて丸みの影を捩れさせ、な捩れへ誘われるかに反り返りが傷の姿な儘かに喜ばしげに鈍（のろ）く脹れ呑まれれば、抉られへの抗いは翳み削られへの妨げになろうかにも抉られの尖り窒がりの凝り固まり損なう激しさそれとも消され浮かび砕かれる痺れ回されるかな優しさの引き裂かれの頑なな組み換わりの尽き無さ、を偽り限られ匿われようとされる角角しさの重み撓垂れる薄みを抉り丸まらせる筈の塗される暗みの浸み通り抜けを窒ぎ角張らせるしか無いなら、な角を刻み集め裏返ろうか

な同じ向きの丸まりに眠るかに順うばかりな形（なり）が映され腐り懸ける色合いを煌めき逸（はや）らせよう、にも、な形（なり）ごとその映されは凋み窪まり、な窪まりに誘き出された前屈みに微かに浮き平らぐ濁り凝りへの圧し開きを縮まらせる縦にばかり昇り波寄り立ち騒ぐ刃を重ね接ぐかな硬い限りな細みの描き出したげな丸みの映り貫かれ揺り裂かれる、にも、な貫かれ限りが丸みを貫き抜けて揺り裂かれを窒ぎ透かし、な透けの厚みを薄く幾重にも重ねずらし追い立て刻んで貫かれを貫き責める向きの乱れ撤かれる定まらなさに粘り着く僅かに円みを圧し現し消す消しの乱れ果ての硬い限りな揺らめきめく円みからの小さく振り出され続ける揺り戻しが押し並ぼうとしながら狂い無く僅かずつ距たりながら崩れ泥み粘る内を透かし奥まらせる狭苦しげな深みの狭さから逃れ返ろうとし損なって奥まり尽きるかな、厚みが必ず孕もうと縮み濁る渦の始まりを短い限りに断ち滲ませ震わせて静まり振る狭み至りの数え切れなげに数さえ溶かすかな明るみめく切れ繋がりの已ま無さは、な姿な儘に明るみめき窮まろう透け濁りの狭みを滑らかな煌めきの潰れ穢れる僅かな脹らみで貫かせ、円みと硬みの斜交いに溶け傾れ已んで已み鈍る鈍りに添って淡み向く内へとだけ刺し転げ返って内向きから撥ねられる向きの盛（さか）り眩んで独り大き過ぎが災いしたかに高み尽きる、硬みが円みを覆い包もう滑り易さの徴の溢れ溶け下る傾きの向こうに行き成りに距たり窪み光る底を示して已まない、

かにも、な已ま無さを閉じ伏せる大き振る虚ろの誇らしげな底の無さは無い底を笑いさざめくかに翳し暗ませ、な陰を上辺限りに拒む暗みの虚ろを呑むかにも底の無さの光り窮まる姿を衝き上げるなら衝き上げるで底の無さの底へ真つ直ぐに墜ちる光りの無さを際立たせ、な光りの無さの徴なら光りを孕もう暗い先の現され通す下りな光りから暗みへの輝きの磨き出される広い限りな窪まりの狭さを囲み懸ける崩れ尖り損なう閉じられない環の透け鈍りそれとも、な鈍りに匿われた透けの深みを断たれ閉じるばかりに開く姿を浮き晒す、な姿を厭うかに揺り戻されれば環に刺さるしか無い環の、有り得なかった痕なら痕が棄てた光りの無さへの開かれな形（なり）の危うい、あやふやさ、かにも粘るような安らかさに隙なく窒がれて限られ反り限られる奥まりめいた細い窒がりの昇り繋がれ伏せて暈け墜ち拡がる陰へと明るみ過ぎ晒され、な明るみの痕の光りの厚い底のように輝き角張り暗む狭みの撓り割かれ過ぎれば撓りも割かれも除いて輝いてこその暗みが磨かれ透かされ、にも何の深みも弾かれ唯狭みな限りな虚ろをも拒む、な虚ろの叩き落とされた痕の深み振りの恐ろしい速さを偽り備えた何の徴も浮かばない平らかさが狂い無い真上へ圧し浮かせ、な狂い無さだけを猛らせ何の速さも砕き散らし濡れるかに僅かに窪ませようか、真ん中だけを貫くせいで細みなだけの細みでしか無い細みの光りを細みより細く呑み続け砕き已まずに、な向きへの速さを速まらせて已まない狂い無い狂いかな唯重

みとして外と隔てられ切る厚みを真下へ断ち翳し、そのそれだけな圧し縮まり抜ける抜けの内の虚ろをその大きな儘に貫き閉じ固まり開く硬みで固め抜き、な直ぐに抜け已んで円みを映すかに脹れ閉じ俄に輝くなら輝き鈍るで、な鈍りの隠り過ぎ繋がりを求める唯繋がりの徴だけかな隙を貫き上がろう重い限りな丸みり深みでもある高めから圧されの拡がるのを強いられき貫き上がりの向きを幾つのも分け向かせて互いの距たりの内の強くあやふや、重みを垂れ下げ揺らし頽にさせ、光りを匿う濁りを呼び寄せ分け向かかれた向きを束ねる企みをそれをれつ企みと割き絡ませ捻れ平らげさ跡、な捩らせを覆い統べる、なこうへ墜ち断くて高みを掴み損う為に抛られるさの曲がり棄てられ残る斜め、だけに磨かたる翳み痛む限りな鋭く透ける微かさの軽みの向きは破られ已み難な已みの上れか向けない浅さを蝕む同じ姿を粗く噴かせ懸けてどれも酷く見、い変わり身し晒し接ぎ、な接ぎのさも夥しい数の向きも垂れ流すかな、にも窄接ぎと接ぎを接ぎ合う向きは互いを溶かし巡らせかさい深みを反り損なわせるまる窪まりの小さ振りに偏るなら柔らかに滑るしか無い、その裏へ回り逸れかかに沈み隠り現れ僅かにも常にだらしなく開かれ捩れて厚みを誇る重みを響かせ留めよう濁りへ約められ、な濁りの硬みへ潜るか硬みの先へ越えるかに細み明るむ、高みを低く低みを高く映し準え磨いて、な磨かれと擦れ戯れるかに細み明るみを絡ませ切り分けさせ、にも映し準えが独り準えを映し返して細み明る

みを逸れ潰れ掛けた環を描き損なう眩みに纏わり付く高みの低みへの噴き上がりに曲がり尽きない兆しを突き刺し回して潰れ掛けの環を巻き込むなら、な環と低みから隠れて繋がる尖った刃がうねるように逸れ向かって来ようかに、透けてさえ無く何も映り込ませない様を籠もらせき脹らませては、な様を穢し剥がし懸け、な様を呑むしか無いなら、な無さを拒んで偽りの呑み損ないを繋げる振りで絶ち回し、細みの尖り強張り已む平らかな暗みに囲まれても細みから撥ねられ反り頽れる向きの細みより尖る細みの匂いの砕け強張り起き懸ける弱さを晒す喜びに侵された望みが呑まれようとされながら先細り強張り爆ぜ懸けてふわりと逃れられる流れ固まる限りな硬みの崩れ脹れ繋がる、痛み擬きな微かな震えの荒ぶる上げ下ろし、かにも、な流れ固まりを抜き砕く流れの硬みの噴き暗みが途切れ途切れに消え尽きない無さを捩れ翳、な翳されを接ぎ移す奥まりの縁を舐め辿るかな丸みの裏返りの覆い遠ざかりへの焦がれ疾く果てる果て振りの荒ぶり圧し殺され窄み静まる微かな波立ちそれとも明るむ徴だけの微︵かす︶かな白み崩れ溶け繋がりが暗ませる硬く固まる煌めきの小さい限りな、翳されの頽れ傷んで撓み逸れ戻り窄まる開かれた狭みから流れ墜ち已む已みへ撥ね静まり褪せる滑らか過ぎる細い限りな偏りに占められ割かれ曲がるしか無い淡くに二つの暈ける向きの反り失せるかにも失せ返されるなら狭みは狭みを侵したいかに狭みを重たげに抜け丸まり、な抜け丸まりの幾つもの向

きの撤かれ過ぎたかな柔らかみは、陰を数知れず噴き出して陰が悉く尖り固まるなら、な硬みの向きを一つに束ねる兆しばかりが脹れ打ち巡って巡り果てを定め切れずにも巡り果ては燃え盛るかにそれとも、な燃え盛りを擬え損なって擲たれるかに、一つ身の崩れ千切られる様を裂き映し回す、陰の陰でなら光る筈の溶け泥み流れ始めよう一筋の短過ぎる柔らかみへの放たれの鋭さそれとも鋭さに纏わる鈍みの硬みの向きに順い舞う姿は光りの先へか溢れ充たされ、かにも、光りは硬く裏返るか陰の陰の陰の塊の剥かれ転がされるしか無かろう黴が細く延びよう向きへ並び続きぶれて消されそれとも消され沈み剥かれ直すなら燃えるかに温く狭まり強がり絶たれる白み崩れの尽きない甦りを擬え損なう幾つもの距たりの入り混じりに拠ってだけ知れる、陰の陰の陰の向きを切り刻み脹れさせて眩み静まるかな刻まれ振りの接がれ乱され、な乱されの重みの浸みた懈げな裏向きを焦がれるかに途絶え窒がり円み荒ぶって静まり返る遠過ぎるだけの透ける程の近さの禍禍しさを装う陰の光りを伴う消え尽きから一つ距たるなら光りしか無いにしろ、な儘に光り異なり已んで、な已みこそ已み尽きずに、向かう向きが交わり損なう眩みの断たれ去りが距てる隠るばかりな柔らかみの粘粘と渦を向き返して来る向きの内の縁沿いに突き巻いて去り失せた眩みを暗みから切り離す振りで向かう向きを振り動かし降りる貫きだけを迎え昇らせる限りに已み盛（さか）ろう様は撤き放たれ、その一つ一つが己の向きを

殺ぎ尖らせ偏り回るなら砕けた厚みを纏わされるしか無くに偏り回りの内の奥
へ、失せる為の内へ窮まる震えの破れ目を探り巡るかに有りもしない向きを眩
み寄せ、に、細かな限りな揺らぎを滲ませ破れ目を探り取れない震えを窮まら
せ、な窮まらせでは滑り逸れるしか無くにも直ぐ逸れ已んで、な已みこそ丸み
の縁を辿り逸るかに還らなれらしならくい処ではないかな滑り逸れの続きへの
焦がれ鈍りの果て溢れ擲たけ硬ば丸みの欠片を掴み捩る激しい静まりの兆しは
荒ぶり流され、な流されをれしくかす向きから逸れ巡り来て来果てるなら来な
い儘にその向きを向き異な圧せて去り現れ尽きないに違いない、にも、な尽き
無さに衝かれ抜かれるなら衝かれ異なり、にその異なりに沿う縁なら縁、で無
いなら尽き無さの断たれた端の眩みへと先走ろう光り撫で窪まり反る確かな裂
け尖りの鈍み一つが自ら裂け窮まり裂け目一つ有り得ない圧し向かい、で無い
なら接ぎ翳される限りに荒れ静まり狂い無く圧しの真ん中へ衝き架かりその圧
しを外れる悉くを厭い拒み滅ぼし尽くそう触れられない眩みの眩みな儘に眩み
異なり向かうなら、な異なりを眩み戻す動きに焦がれ損ないながらに叛き、に
動きと動けなさの失せた狭間で失せた儘なら光りの欠片かにその失せ痕を独り
占め出来て仕舞う始めから欺かれた痛みの一震えな消え現れの上を回り続ける
形（なり）で、な消え現れの窮められ尽くせない微か過ぎる脹らみへ奥まり静
まる濃やかさの狂い無い鮮やかさに切り刻まれる限りに傷められ尽くされ、に

も、な尽くされ痕の予め失せるばかりな徴が徴を産み殺す閉じた一渉りに開かれ閉じ尽きる、な尽きの已むか已まないかの境に擲たれ固まって曲がり尖り損ない継がれ尖り欠け尽きない低さの奥まりそれとも奥まりを拒んで曝け延び歪み懸ける狭みなら狭みの切れ切れに圧し接がれて厚みを消す厚みをなぞる柔らかみに張り満たされる、透け貫かれ、な貫かれ一つの透け窮まりが独りを装うしか無くに独り静か過ぎる様で現れ翳される真向かわれる侵されに囚われる小さ振りの濃やかさを拡げ塗して動かない分かれ分かれに触れられ閉じ固められる形（なり）の形（なり）な儘に薄れ束ねられ弱さを曝される限りに強まる、に、な形（なり）を始めから無かったかに昇り反り堕とす円みへの重みに委ねたい望みの暗みを抜けられない明るみの暈け縮み内向き損なうなら損なうで、な損ないの内が暴かれ強いられるならまた独り静か過ぎる小さ振りに真向かわれる侵されに行き成り頽れる透け貫かれに届かない、損ないの内の外の有るか無いかな弱い限りな弱さそれとも強さへの忌み嫌いに散らばり翳んで確かなる透けを取り入れようと濃やか過ぎるなら断ち切られたいと望むしか無い、揺れ動く為の深みを悉く奪われた明るみのその現れ尽きから逃れようの無い失せ果てる虚ろの平らかさに塞がれ占められ、かにも、な占められは虚ろの失せ果てを抜け詰まって裏向きに真向かわれるそれとも、な向きごと侵される徴に覆われるその奥なら奥、で無いなら剥き出しの侵されな形（なり）で形（なり）を覆う、

かにもでも無くに、な覆いを貫き抜け、な抜けの虚ろの失せ果ての裏の立ち窒
ぎを狂い無く覗き拡げ狭める透けの強まり続け果てかな円みの眩み已静か過ぎ
るなら噴き昇り已むしか無い已み痕の痕異なる昇り振りを繰り返し已ませ尽き
ない、な已みな儘な現れの硬過ぎるなら翳される薄みの透ける限りな円みの尖
り切って眩み已み透け損なうそれとも透け損ない損なうせいで真向かわれる果
ての消え現れの匿われそれとも、に匿われ晒されるる緩やかな限りな均しく混じ
り縮み果てるかな煌めきを清かに穢れた色を吐くかに弱げに乞い尽きるる小さい
限りに狂い無い揺らめきへの眠らされるかな誘︵いざな︶いが匿い揺らめかせ
る果て知れないかに硬い狭みの已ま無さを解︵ほぐ︶し狂わせ、明るみな限り
に荒ぶる消え現れの微かな向きと向かれの入れ替わり合いが籠める重みを撥ね
回し詰める厚みを支う、な厚みとの下へ向かい失せる距たりそれとも距たり暗
む厚みの影かを手繰り異ならせる斜めに項垂れ向かい来る汚れ果てた光りの突
き頽れの幾つか並び刺さる振れては戻る墜ち滑り跳ね躍りは、回り断たれ昇る
縁からの透け爆ぜ尽きの尽きない消え開きに姿を借りる重みが呼び逸らす沈み
振りの傍らを衝こうと焦がれる途切れ進む狭みの磨かれ接がれ、にも接がれ打
ち切られ已まずに、後退る向きの暗みを後退り窮まる暗みの眩みに束ね棄てな
がらに、な棄て去りへ徒な身を抛るかな盛︵さか︶り発つ高みへの丸みの勢い
は棄てて来た眩みの影を舐め零し分けるようなら、な影に映る眩みでは眩み異

因で独りりな衝の儘は光み虚へ籠ずななる噴り揺見重き抛に途りをろのもに続っ、き脹れたみ拡りも切の割が微るもきてそ偏らていをげ棄連れ反き侵か荒、ご明のらみ細か切衝てな繋り除しな荒なと明眩せ過くなれきらりが急く留望し已尽とみ、ぎ沈濃切戻れ已るくなまみさまき消のにたむやれしるん光流らるそは無るえ裏も一限かに尽かでりれ、限れ粘さ先果へ、欠りな窒きな、の已なりとっががて逃な片な淀ぎな棘な光み割にもこ匿望なげ偏の尖み接い棘已りのき失虚くいまい込り映りのぎなしみ自狂痕せろ圧荒れ向むはり逸接伸らさがらいを尽をしら厭き向そ移るがば尽を割に無棄き微窒すわのきのる向れしき撥き抛くてるかが、れ向の儘様き撓てなね開る刺窄かにれか厭き揺にのへみそい回く断しまにもてにわへり一そばをのでし煌ち横ら暗忌揺もれの戻続れか連静、墜め切切せみみり静の断りきぞりねまなちきりら刻の絶戻か逆ちをのれにさり尽転のをれみ重つりに剥切絶古に千せ粘きげ内脹る並み確が接からえび向切、り無さへら激べをか強ぎれれずたきれな返させ内まして偏なく延るが繰匂を突接るのよ向せさはり動求ばか圧りい入かが先閉うき滑が撫渋きめしにし返をれれれにじ重窒り齎でらそら揺望続し放込已撓明塞みが尖す圧せれれらまく籠つみまみるがをるら短し重とよすればもか違なにみれ狭塞せさ下みもう、直かりなえい澱のたいが已のろが唯、なさり損眩る円と影内限りま連さ開微な揺れになみ強み溜を向り振ななれくか虚れ已も、うにさのま探きにりいりる低なろにま

鈍みから突き滲み流れ射し出される細みに眩みごと絡み占められ静まらせられようよう、に、絡み占める儘に真横から僅かに傾き項垂れる暗みへ幾らでも裂かれ続ける形（なり）を潰し続けるなら、に、続く程に潰れ已めば、な已みが割き明るませる円みの痕の動かなさは動きを呑み果てたかな鈍い限りに狂い無く円みを動かす動き異なりを窪まり翳し隠らせ、にも、な隠る筈の明るみも暗みも露わにひっそりと擦り切れ失せたか失せて無いかの境目こそ真っ先に失せさせた硬みを塗り拡げる薄い限りな薄みの明るみめく狭みが撥ね拡げ迫り射し向かい来る儘な、虚ろと描かれるしか無い円みの痕の動かなさの裏の硬みに窮まり届いて砕け失せるしか無くに窄まり狭まる眩み、にしろ明るみに隙なく縁取られては何の眩みかに僅かに偏れも揺らぎも為らないなら、な儘に変わり続け已んで已み続ける果てに裏が表を呑み損ない圧し薄められる程に射し向けられる向きを拡げ果てる限りに拡げて裏の表を毀し除いて遠過ぎる円みを冷たく映そうかな透け燻む徴を濁り溶かして恐る恐るゆるゆるとも連ね逸らせる、な連なりから距たり寄り約まる環を象る影を閉ざす接ぎ乱れの隙を空けては疎ましげに深み並ぶ狭みへと重みを縮め鈍らせ已ませて覗き見通せる透け籠もりの厚みは僅かずつ濁り曇るしか無いなら、な曇り渡りの内を透け貫いて凝り剥き晒され尽きる明るみに叛く窮まりなら窮まり果ての消える間際かにも鮮やか急く逃げる向きを探るかな暗み振りは、窮まり損なうしか無くにも損ない窮まり暈け

流れて接ぎ迫る形（なり）を爆ぜ脹らませ、震える眩みの震えより近くの縁に巻きせまされる細い限りな先を何の色をも色とも無く弾いて輝かせるかに滑り尖らせ姿を消させい、深みからの深みの奥に匿われ腐り溶け流れ懸ける丸みの捻れた薫りが硬く撓る限りに眩みの縁から縁を巡り逸れ懸け途切れそうなら、な撓る歪んだ勢いに誘（いざな）われる誘われが見上げる真上は、割かれ尖る向きを二つながらに一震えに切れ已ませる薄みを暈かし潰す己独りの重みの小さき振脹らみの僅かな弛みのそこだけ内深くに匿われしか無くにも褪せ衰え盛（さか）って真上かに翳され反らされ、な反らされに接ぎ添う割かれ尖る二つの向きを束ね損なう一震えの裏を舐め進んで細みを震わせる浮かび昇りの浅い限りな重みの頽れを歓び散らし集める、一震えを二つに割かれ尖る丸みに換え隠らせ、にも隠らせ現す動きを湧き明るませる重みの頽れの柔らかみに凭り掛かり曲がっては浮かび昇る細い限りな細みだけは重みの頽れの内の明るみを貫き揺らし硬く締め延ばし懸け衰えさせ、な衰えの貫き已ま無さを擬えようとする向き逸れる滑らかに厚みを翳し誇るかな仄煌めきの傾ぎ墜ち懸ける形（なり）の噴き上がる鈍みだけを捩り均し翳す暗みからの断ち切られに接がれる間近な程に疎げな粘りを沈ませ匿う逸れ已まない贋の明るみの狭まり透け裂けるかな偏りに約まり流れ衰え振る、にも、な流れの何処へも向かわない向き限りな圧し爆ぜ已む偏りを拒んで狂い無い円みを映し凍らす行き成りな透け様の砕

け溶け果てる痕に独り有って無くなろう、映り凍る円みを回し毀して円みを砕くなら少しも砕けなかったかに砕け已み、な已みの延び切り失せるに任される先が向き向かうその消え現れを小さい限りに匿い震える、で無いなら自らを翳し弱らせ尽くし、にも尽くし已ま無さが翳されるしか無くに、な無さを響き歪め切って無さ異なりを招き薫らす無さとの距たりそれとも、な距たりも距たり異なるなら、な異なりを拒み厭いながらも距たりは除けられない、映り消えた円み擬きなら奥深さを匂わす蝕まれの回り果てが開き窄める明るみを覆い暈かし貫く、な貫きの何処からも通り抜けを拒まれる形（なり）は、な形（なり）の儘を貫こうと映り消えたら円み擬きから映り消えだけを抜き取り逸れば却って円みの消え映りに迫り侵されそうで、な迫り侵されの光るかな鋭さの鈍みそれともの映り消え尽きない暈かされる限りに震え刻み現れる拡がりの拡がり異なりをその厚みまでも狂い無く映し回そう、光りを呑み尽くして明るみ回し偏り異なる、な異なる形（なり）とさえ触れられないなら凍り薫るかな円みへの向き独りがあからさまな裏向きな圧し消え尽きない形（なり）に換え据えられ、にも、な消え尽き無さの已み果てる爆ぜ尽くされめく狭みそれとも、な狭みを拡げ尽くしてその狭過ぎを嫌って回り傾ぎ続けようとする自らを切り刻んで明るむ明るみかな眩み凝（こご）り頽れ溶ける、圧し弱る限りに現れ尽きない、内へ棄てられ昇る動かなさの翳み狂い接ぎ移る、な狂いが必ず纏わり付く狂いへの僅

かな叛きを裂き爆ぜさせてはその後退りを越し消し已まない動かなさ異ならせる裏向きな儘な衝き上がりそれとも衝き砕けな形（なり）を自ら曝し暴いて間近に戻り狂う眩み凝りの、唯捩切られるような形（なり）に為り換わり損ね窄まり歪んで、な窄まりの歪みが掴み取る更に窄まる奥まりがその先に先を深くへ覗かせる歪みなら歪みな儘に何も歪みようも無い、歪みへの象りをやんわり厭い砕き、に脹らむ儘な厭い切れない象りと戯れる重みが現れ続けて射し逸れ懸かる光りの鈍り絡み溶ける流れを走らせる偏りの波立ちは已ま無くにも、な已ま無さの硬みが立つ波を端から圧し凍らせよう斜め奥へ滑り暗む高みからの薫り擬きな明るみの細く傾れ下り絶える絶え痕に見え隠れもしよう僅かずつずれ交わる薫りへの向きを象り歪ませる、な歪ませを塞ぎ延ばす欠け尖る円みと丸み違えられるしか無い平らかさの欠け様を二つ並べ接いで接ぎ目辺りに滑り現れそうな裂け目を覗かせる明るみの歪みそれとも歪みの内に匿われたかな明るみに叛き毀れる、歪みを映してしか現れそうにないその辺りでさえ見掛けない小さな陰を隠れ乞うかな高みへの裏返りを企む、明るみより明るいなら腐り捻れる限りかに暗く湿り狭まるしか無くに、な無さの重みを低く拡げ包み丸めて狭みの平らかさを縁取り逸り拉がせる、明るみの歪みに集り明るみを切り分け確かめたいに違いない丸みの際立つどれも細長い徴を塗り滑らせ光り固めて影を深く刻み脹らませるなら動くしか無い動きを自ら切り刻み刻み接いで贋の

明るみを途切れ捩り溢れ誇らせながらも必ず脇に迫り塞がる暗みへ半ば溶けな
がら尖り荒ぶる、明るみの歪みのぴたり真ん中を分けるように継ぎ目の裂け目
を確かに象り映し移し戻したい、小さな陰に籠もり丸まりその丸まりの欠片か
に裂け目を傷付け窒ぎ奥まらせ映し凝らす、かにも、裂け目を閉ざし分けた様
を暈かし翳す振りでもして、な儘に分け果てられた縁を拡げられる限りに高高
とも温く柔らかげに晒し尖らせ、明るみさえ曲げ角張らせ破り塞ごう低みを窪
み翳らせる翳りの上辺を掬うかに照らし出す、に、な照らし出しに乗り騒ぐ軽
い掠れ声の響きなら響きの当て処無さかな裏向きに反り煌めき鈍るその動かな
さの硬く脹れる震えのさも薫り溢れ涸れて透け濁る、な濁りの奥に透け尽きな
い尽き無さを覗き拡げられよう勢いの強く撒かれ尖り向く向きから向かい射
すような眩みは、眩む程に湿り深まる暗みを裂き滅ぼすかに尚も尖り丸み拡が
る形（なり）を真っ直ぐな重さの翳される儘に偏り奥まりその奥まり疎まれる
限りにたり尽きようかな尽きる奥に距たり尽き無さを切り腫らせ掴み窒ぐそ
れとも、尽きた距たりごと障り窒いで窒ぎの奥の丸みを探り逸る光りを流し垂
らす重みへの向きへの厭う限りな儘にも偏り果てるしか無い煌めくならめか
なさを偏に追い丸まるなら丸まりをその度に絶ち丸まらせよう、にも、な丸み
など疾っくに棄てられた遥か重みの側へだけ反り転げる向きを見下し、にも、
な見下しは直ぐに刻まれ撥ねられるにしろ、な重みに纏わる行き来ごと散り失

せ丸まりそれとも丸まり異なるなら、な異なりごと反り転げる向きを希み離す
先の明るみと眩みの入れ違いかな奥まり濁るなら濁り果てようも無くにも、な
濁り果てようも無さのそっくり陰ばかりな欠けた円みのさも虚ろな、にしろさ
も虚ろに満たされるなら虚ろとはまるで異なる見掛けを圧し迫らせて来よう、
な圧し迫りへ貫かれる筈の虚ろに満ち窒がれた虚ろに吸われ砕かれるかな明る
みが搾り出されようかにも、な明るみの現れは、予め暗みに隈無く犯をれたか
に汚れ固まり懸けては虚ろなだけの欠けた円みを厭い乞うかに、光りに匿った
痕に失せた光りを匿い籠もらせ独り周りの光りを拒み現れ閉じる限りに衡き上
がる硬みの静まりに貫かれ満たされ澱んでは乱され象られ、な象られに現れご
と揺さぶられ自らをも揺さぶるさるみのその揺さぶられ揺すぶる幅よりは拡が
りを拒まれ揺れる程に狭まって拒まれる向きへばかり裂かれ刻まれ尽くされ細
みの限りへと明るみな儘に閉じ開かれる触れられる細みな形︵なり︶を厚く絡
み束ね損ね合って、な損ねられを直ぐ様浸み侵す、円みの欠片一つでも映し移
そうとし損なうなら、な損ないを接ぎ明るませそれとも拡げ刻み暗ませては、
映り移った円みの欠片かな翳りの縁にほんのささやかな輪を画き損ねて明るま
せからも暗ませからも暈け墜ち懸けるかに濁り消され、にも、斜めに強張るか
な輪に滲む明るみを明るみ異ならせるなら濁り消されは穢れ迫る匂いさえ反ら
せ巡らせ狭みに刺されるかに現され、な現れの痛みの延び拗る鈍さが選り抜か

れた鈍みを含む色を呼ぶかに鈍みを滑り掬う姿は明るみ異ならせに埋まり浮き薄まって僅かに輝こうか、な放って置けば直ぐに燻みそうな僅かさに透かさず染まる鈍みを透ける穢れ迫る匂いの輝きへ輝きを裂き開くかに溶け入るしか無いなら無いで、な無い儘を薄く暈ける限りな穢れの真下に匿い丸まらせるにしろ、な見窄らしい丸みは拡がり過ぎれば遠い限りの外からの汚れも被るしか無い欠片でしか無くに隠り深まり振り、な深まり振りを溢れ昇り散って降り浸み狭まる、丸みの尽き無さでも乞うかな粗い影の斑で棘棘とした失せ痕かに鮮やかにも鮮やか穢れる穢れを持て余し厭う煌めき鈍る鈍みの遠い程に鮮やかめく向きに反り沈み際立って狭まり掘られ尖り匂わせる現れの墜ちるかに現れ窮まるならに現れ尽きて衝き尖り拡がって貫きめく硬みの自らを刻むかに脹れる儘に小さ振る上っ面に移され偏る、な小さ振りの翳されの向きを消し已まないかな向きを僅かにしか換え尽きない、閉じ回されるの翼の繰り返される擦れ遊びの重みだけが狭まり抜け掠める、な狭みと狭み異なりとの行き交いに奥まり窒がり舐め下り上る隙なら隙の、隙を充たし透ける眩みめいた即かず離れずにも映り偏りへの偏りなら偏り、で無いなら映り偏りを潰そうと焦がれる奥まり窒がりの貫かれに擬えられよう、奥まりを直ぐにも充たす筈の圧し鈍りの細みの尽きない重なりのずらされ消え向かう細みを越え潰しながら、な潰されに細みは噴き連なり偏り接がれ、に偏りに向かう向きに狭みな接ぎ乱れを撓み震わせ、予

めな濁りの失われが澱ます透けに侵され渡る狭く小さ過ぎるなら濁りの失われに叛く悉くを強く撥ね除け柔らかな薄みの伸び縮みを塗し沈ませる明るみそれとも明るみを僅かに暗ませる明るみより微かに高く煌めき溶けて明るみえ失わせる薄い限りな光りに従い曲がり保たれる透けの失せ痕かな温かな清かさの隙なく満ち撓らせる内向きへの窒がり開かれによって接ぎ構えられ、な窒がれ開かれを縁取り更には縁から内へ切り込まれ、接ぎ構えをより滑らかに囲み閉ざし、にその姿の向きを充て断つ変わりなく濁りの失われな儘な濃やかな丸み傾きの繋がり明るむ、な明るみの貫かれで窒がれ丸み映す際立ちそれとも狭み振りを翳し繋ぐ繋がりの縁が縁を呑み合うかな細みな自らと向かい背く、細みだけが残って行くかな貫きめく硬みの薄い限りに明るみの頽れに弛く囲まれ静まる柔らかみは、残り穢れる細みの割け果て準えられ滑り、閉じ回り尽きずに閉じ回り異なって割けた形︵なり︶をそれに被さる外に与えるしか無かろうか、奥まりを匿い狭めその狭まりを内へ尖らせ潰して常に捩れようとしながら翳り脹れ傾ぎ昇り懸け振る丸みの上辺の欠片二つを接ぎ並べずらして翳り崩される構えを冷たく激しげに温く乱れ撓ませ振りを偽りかに頽れさせるかにも、な欠片二つは丸みの崩れを慈しむかに接ぎ並べられ崩れる様を固め凝らせれ已まない動きを弾き出す向きへと光りの尖る先に倦み泥むかに偏に揺らめかせ、ずれようの無い明るみの暈け窮まる微かな柔らかみの内に浅い限り

に溢れ細る静まりに満ちた乱れ撓みの潰れ盛（さか）る予め限られた奥まりに呼ばれ爆ぜる明るみの頽れ擬きな煌めきに塗れ溶けるなら欠片でも二つでも況して完っき一つでも無かろうかな偏りを偏りな儘に光りを透ける振りで戻り直し、かにも、な偏りが偏りな儘なら偏りは偏りごと失せたかな偏りが生み矯める勢いに噴き厚みめく明るみの明るみへ溶け濁る揺り窮まりと揺り戻しの交わりそれとも交わりようの無さが失せ翳される翳されの薄みは薄みに耐え切れない振りで薄みを薄みから剥がし損ない、な損ないが傷付け裂き拡げるそれとも傷を塞ぎながら傷より暗い深みに届く明るみな限りな刺し貫きを貫き果たしたろうかな欠片の姿を跡形無く塗り籠める丸みの艶めきなら艶めき、で無いなら濁り透け果てた光りの棘棘と裂かれ已まない姿の内向きへと刺刺しさを鈍らせ逸る煌めきの走り去りを追うかな瑕一つ無い丸みの、欠片を拒む窒がり窮まりな形（なり）な儘な欠片な姿を晒すしか無い無さの厚みとしか光りを浸み通らせるしか無い揺らぎそれとも揺らぎ失せよう揺らぎに囚われるなら、にしろ囚われる内は虚ろでしか無かろう形（なり）を曝すなら、な曝されの曝されを拒む曝されを強いられ偏る歪みを曲げ絶とうとするか、な内を裏向きに突き抜けるしか無いかに、囚われに偽りに曝され果てよう振りに振り翳される高みに包まれ回り上がるなら曝されの逆さを窄ませ反り回る向きの渦への囚われを窒ぎ厚み盛（さか）らせる斜めな限りに曲がりたげに交わりを乞い損ないそれとも

窒がり堪えられるにも虚ろかな軽い限りな重みな振りに擬えた輪の弛み沈むかに内から贋の外へ隈無くな隈も失せさせ拡がり墜ちる鈍みで塗し留め晒し、な尖り墜ち失せるかな鈍みに塞がりの明るみを前にするかに狂い無い揺らぎを乞うらしいその鈍みに触れ回り渋る徴の真下へ向け徴を溶かしたい徴ばかりが並び約まり疎まれる限りを映し込む円みを拒んで翳み尖り窮まり損ない丸まり懸け頽れる環を描くに違いないない更に真下へ墜ちたい脹らみそれとも虚ろを窒ぎ充たす暗みの暈け際立ちが尖り爛れるかな揺らぎを匿い捩り強張らせ堕とすそれとも堕とし準えられる限りな内向きな脹らみの接ぎ整い過ぎる微かな狂いを追い暴き隠らせようかにも、さも裏表を映し合うかな濡れ凝る偏りの狂い無い偏り異なりの触れられる厚みを翳し崩す裏と表の狭みを拉ぐ限りな偽りの閲ぎ合いを戯れめき、にも、な果てとも無い果てにならず必ず自ずな小さ振りに圧し崩され失せる戯れ痕の痕な限りな上向きな眩みと下向きな眩みの距たり過ぎるなら互いを呑み合う動きの混じり逸る輝きの鈍い余りに、に抛って誘われる眩みの行き過ぎに捥がれ遊ばれ割かれ唾み合うかに均しく溶け傾れようかに爛れる振りを逆立て喰らう硬みを歪み倒し懸けて渦を粗く逆さに回すかな、それ限りな揺らぎ偏りを窒ぎ開き巡らせ、な巡らせの反り撓り渡りに強く躍り挟まれながら、な挟まれを躍らせ苛ませ、な苛ませの狭みの硬く斑に爛れる限りに脹らませ搾り撓み直させ、にも、な撓み直しを裂き並べ弛ませる強さなら強さから

のずり落ち、で無いなら弛み矯められる揺らぎ窒がりの重みの鈍みを拡げる向きの鋭さに撥ね縮め、その必ず僅かに逸れる向きの無さだけが圧し迫る形（なり）で窒ぎ細らせる躍り静まるしか無くに高みの潰される向きの尽きる様の独り広まり静まりを潰し呑む限りの独りを独りに映し拡げ潰し潜らせ潰させ凭れ合わせるかにも、な映し拡げから映されへの欺きに侵され満ち鈍る厚みの爆ぜるかな強さが強さを粗粗とも毀し映すか、な映しと映されの塞がり行き違い塗れる爆ぜたかな厚みに窒がり爛れよう数知れず丸みを匿い固める向きなら向きの無さが偏らせる薫りなら薫り異なりに似た徴が丸みを細かな限りに呑み尽くし、な徴の溢れる向きを探る先の絶たれる儘に抛られ置かれたらしい狂い無い眩みが、な絶たれと向き合おう徴の爆ぜ拡がろうかな形（なり）を形（なり）ごと窄ませ消し尽くし尽きずに、な痕も無い尽きない絶たれ、なら絶たれ無さともーつな、なそれの一震えな已みを匿う薫り異なりに準え尽きる穢れを呼びたげな微（かす）か振りに接がれる先の静か過ぎて奥まる円みの内を疎ましくも逸る限りに舐め走り尽き、な先の果てへ窮まるかな一震えな已みの果ての眩みから逃れ逸り煌めき頽れる、な頽れる煌めきばかりを塗り込めようとするのは、微（かす）か振りが徴異なり薫らせ残した一震えな已みの匿い痕それとも、な痕に擬えられた徴異なりの消え失せの消え失せ、なら消え失せ異なるしか無くにも、な異なりが異なりの根かに匿ったろう一震えな已みが溢れさす光りの

光りより眩しくも果てなさそうに暈ける儘な絶ち切られそれとも、な絶ち切られが煌めかす煌めかせの消え失せ尽きた痕が自らを裂く筈も無くにも、な無さを裂いたかな狂い無いだけの狂い無さを磨き狂い已まないかに円みを映そうとし損ない頽れ異なる異なりの狭く窄む限りな噴き上がりに似せようと凝り凍る、眩みを戯れに絶ち切るかに暈け果てた真下へしか向かわない円みの、真下に匿われた明るみからの穢れを晒し躍らせ塞いで真下を内から丸まらせ懸けながらに頽れ已まないで眩みを明るみを貫いて走らせるかな蠢きを潜ませ曝す蠢きに擬えられた滑り蠢く儘に蠢きを擦り切れさせた凍り付き振りしか現さない様との距たりを望む限りな、な限りかにも一震えな已みの失せ無さを測ろうとする触れられる厚みを自ら内へとだけ砕いた厚みの外をしか向かない触れられない望みの、暈け窮まり痕にはその痕も無いのを際立たせ逸る儘に窮まらずに失せない暈けを呑み尽くそうと焦がれ静まる中に微かに響き尽きる透け果てた小さい限りな匂いにも準えられようかな澱みの硬みから滑り失せよう形（なり）を尖り光らせるかにも、な形（なり）の弛く光り鈍り盛られ窪んで厚くへと砕かれ固まる冷えた重みの光りを拒む、一震えな已みとの距たりを予め重く纏う光りの内から抜き出される暗みに塗れ果てては剥き晒され、な剥き晒されに重なり逸る振りの僅かな陰から剥ぎ離され光り塗れに暗み続けるしか無い繋がりを拒む捗りの徴の先を反らす荒ぶりで冷え切った重みを乞うかな柔らか過ぎに痛

み圧され唯縮まり凝り動き静まるなりに閉じ震え閉ざされ窄まり震わされ、にも、な窄まりだけへは、独り激しげな穏やかさを潜ませ揺らぎ已まない弱い限りな弱さを開いて剥き晒されても、な儘に独りな重みの限りを上辺は軽そうな丸みを帯び懸け傾けながら向き合い已みようも無く、な儘にも触れようも無く重みごと奪われるしか無いなら剥き晒されの開かれに狭い限りに閉ざされ窮まり熱く怯え凍え連なって向き合い已ま無さを尖り鈍らせるだけの内向きに光り塗される狭みと狭みの向かう先に囚われ固まり砕ける兆しめく、な先への固まりに兆す恐らくは重みの底から予め抜き清められ同じ底の穢れ果てから吸われ戻された光りから来る唯犯しに来るだけの強いられ構えの穴だらけなそれとも穴しか無い眺めに緊く嵌め込まれた独りな姿の行き果て無さへまで届き尽きれば、な尽きに追い付き果てない軽過ぎる光りが光りに眩んで、囚われ固まりが刻む微か過ぎれば微かにも姿を変え已まない影を集め盛った凍え分けられた姿を刻み消すかそれとも、な姿に換えて姿と微かな限りに異なるなら影を集めるのとも集め消すのとも異なる、自らに眩んだ光りの眩みが沈み翳り整い狂う、に噴き寄り騒ぐ儘に延べ遅れを刻もうに独りに沈み丸まる光りに閉ざされる揺れ翳む狭みに軽く触れ届いて容易く隠せる小さく透け薫りに刺さる濁りを断ち跨ぐせいで微かな程に狂いの無い邪な企てに随うばかりな、狭みを侵す程に撥ね迫る真下へと限られる穢れの僅かな圧し静まりにしか動けない穢れ紛いに反り盛(さ

か）り撥ね揺り戻り曲がって尖る影の硬みに、捻曲げ窮まらせられるしか無い擲ち継げる限りに向きをその向きの一奥まりの捩れを凌ぐ抗いを虚ろへとまで破り続けて失せた仄かな暗みの、暈け泥みに映り痩ける僅か過ぎる軋みを明るみに縁限りを閉ざされる度に触れられる薄みを明るみに奪われ已まない円みに擬える、向き向かう向きを向き抜き整える明るみを起こし爆ぜ失せさせが、己の姿を現し取りに失せさせの窒がれ鈍り輝く斑な透けを借りて接ぎ乱れの連なりへでも逃げようかと僅かな擦り砕かれ窪み翳む眩みを潰し拡げ回す儘に、なら逃げようの無い、なそれはほんの行き成り触れられ荒ぶる明るみの通り過ぎに過ぎないとも果てない静かさへ忌み絶ち損ね燃えるかに換わり動く既に過ぎ去って取り戻せないで痕も無い沈み丸まる縁を塞ぎ輝かす光りより独り遡って蝕まれ澄みそうにも狭みを呼べないでは圧し静まりなど有り得ない、常に立ち撓む衝き乱れと衝き乱れの頽れの刺し違えそれとも、な乱れを衝き正す振りを離し昇らせ絶つ明るみの明るみ異なるかも知れなくも、な明るみの向き限りを翳し震え已ませる穢れを貫く狭みを隠し破る限りな窒がりに侵され尽きた狭みに、距たりに暗む偏りかな翳されと翳され已みは、

（二〇二三年十月十五日）

（透け逸れる向きの…）

透け逸れる向きの澱みからの遡りに兆し逸る、衝き乱れを突き放して翳され已んでも翳される儘に貫きめく頽れを弛く静めて噴き閉じ、眩みへの繋がれの溢れ凝る徴を悉く撥ね絞める衝き匿いを、な衝き匿いを爆ぜ崩し暈け窮まった痕の裏返された狭みの映されたかに薄く震える翳され異なりに縋り付いて凍り傾ぐかに独り躍らせようかにも眩みへの繋がれの独りを脱けてまた独りな失せた円みが描く輪の尖った欠片に生え募る丸みの現れ初める翳む限りな徴で塗すなら、に圧し被さり逸れる、爆ぜる翳されと翳され已みとを已ませる重みを濁らせ延ばし窒いで眩みへの繋がれの徴の失せた円みから逸れる限りに逸れ昇る暗みを浸み拡げさせる、な浸み拡げさせを被い尽くすしか無い丸みの徴の消える現れを濁った重みの浮き沈みに換え脹らませ、に窒がれる眩みへの繋がれは、眩みへの繋がれを解かれ煌めき鈍り穢れる輪の尖った欠片の重なり合う裏に匿われよう明るみの翳され異なる窒がりに窄み潜る形（なり）を仄めかせてだけ、な仄めかしを断ち切り窪ませ、な窪ませを脹らませるなら裏と表が互いを覗き砕き裏表を裏返して共に硬みの頽れに堕とし流せば流れ墜ちるのは出し抜けに窄み潜る形（なり）の仄めかしを破り湧く明るみの頽れそれとも、頽れ擬きな緊い繋がりの刺し貫きの捩れ曲がる細い限りに明るみを拒もう失せた円みとの

距たりそれとも、な距たりを距たりなりに繋げる明るみの拒まれる縁の逸れ流れ向かう向きからの穢れと煌めきを溶かし隠らせ、な隠らせに匿われる眩みの明るみを貫く、な貫きを乞うかに追い縋る筈の重みを欺く眩みへの衝き匿いを、失せた円みとの距たりだけは測りようも無くに無いのでこそ逸れない儘な偏りの淡い圧し被さりと圧し被さりの汚れの浸みた遣り直しそれとも、な遣り直しは予め丸みとの距たりとも知れない距たりの広がり振りを潰して窄み窮まる向きを孕んで噴き抜いた、な噴き抜きと噴き抜きの遣り直しの頽れが曝け粘る確か過ぎる崩れ去りの已ま無さに一つ限りに撥ね静まり敵うかに呼ばれて疼き喘ぐかな、失せた円みとも距たりの翳されと翳され已みを已ませ爆ぜさせる失せた円みを絶ち翳して透ける脹らみの狭い限りな狭みなら常に閉じ懸ける様を尖らす丸みを、明るみかに覗かれ眩む圧し迫りを届き果てれば腐り馴染んで拡がり断たれ狭まって暗い光りを滲ませ已んだ光りに褪せるしか無い僅かな煌めきの淡く散り暈け鈍る限りなり重たげな囲い込みめいた穢れそれとも、な穢れを刺し貫いて走る光りに似せれば光り鈍り果てるしか無い穢れの晒され躍らされる見窄らしさを隠し輝かす狭みに擬え、それともその擬える向きを逆さに閉ざし拡げるなら、な拡がりの狭みに断たれ窒がれるかに、な窒がれるかに、に窒がれ澱むを透け果てる贋の匂いを頽れさせるあからさまな狭みが狭みを朽ち棄てられた跡を探すかになぞり閉ざし切り分けて明るみが暗みに穢れの暈け掠れる揺

らぎを映す翳されと翳され已みの浸み通りの、昇り傾ごうとしながら眩み窒がろうとする重さに狂い無く裂かれ分け隔てられる形（なり）なら形（なり）は、な分け隔てられを接ぎ窒ぐしか無いなら、な無さの溢れる向きへ向きを食い破り鈍り接がれる縁の重みに衝き流され照らされ穢れ懸けて穢れを斥け穢れる、な穢れを映し浸み沈ませるかに澱ませ映えさせ逸らせる硬みへ接がれ、に接がれる先の、翳されと翳され已みの痕の爆ぜ躍る静まりそれとも、な静まりを匿い窒いで澱みの硬みを狂い無く分け置く穢れの有る儘な姿かな明るみの粘り墜ち損ない懸ける向きを測れるかな丸みの欠片の欠片の姿は無いなら丸みの痕の砕け接がれて触れられる程に失せ已まない暈けを凍らせる震えを凍らせる静まりに塞がれ消え現れる爆ぜ躍り、な、震えを震え距て、な距ての凍らされを映し消す、透ける限りをさえ脱け移り消え翳す、衝かれ已ま無さをその已ま無さで衝き已まない儘に現れ果て尽きない、その重みを透けに擬え試し続けて透けを已ませ尽くせば透けに換わる濁りは有り得ないなら透け異なりの異なりを透かし換えて重みごと異ならせるかとも、な異なりと異ならせの互いの内へと犇めき覗き合い逸る逸りに潰され剥かれる、な内の重みさえ溶かすなら何をも尖りそれとも円み撥ね除けよう虚ろ擬きなる奥まりを拒んで奥まり剥かれる荒ぶりを堕とし翳し挫けて立ち澱み蝕まれる強さを隠し果せた一渡りの狭過ぎるなら狭くも無い眺めを砕き溶かし磨き去らせ、痕も無いなら痕の痕に剥かれ已まず

に薄い限りに晒される円みを透け進もうかにも透けが透けが貫き進むなら円みは失せよう先に、先異なる透けが透けを吸い込み吐いて吐き已ま無さに囚われ尽きれば、な尽きは円みを拒み撥ね厭うしか無いその先の先異なりの先は無いなら先と先異なりを剥ぎ取られた異なりは、異なり異なるしか無く、な無くをも異ならせるしか無いなら、な無さに衝かれ抉られる傷とも擬えられそうにも傷など磨き消し円みに因る撥ね除けかな形（なり）の立ち澱みの裏に張り付き円みを蝕み已まずにも円みに触れられない硬みを映す、虚ろ擬きな奥まりは疾っくに失せた失せ痕それとも、な痕と距たる限りに距たったか距たり異なる、奥異なりを呼び迎える向きの兆しに添って揺れる微かにも強過ぎるなら微かさを窮めるしか無くにも、な窮まりの速さだけが詰まって犇めく奥異なりの映されを撥ね侵す、な速さが匿い晒す明るみを晒し匿う暗みな限りの光りの小さ振る限りに光りを拒み現しても光り異なれないなら光りで有るしか無い、な光りを窒ぎ貫く向きへと明るみを放とう徴を探す徴を貫く小さ振り異なる限りの、な貫きの外を招き接がれ、な外を外な儘に内に展べ開かせ痩せ延び縮まって必ず消え失せないなら内とも外とも異なる薄みの滞りを矯め凝らせる硬みの弛い頽れの開かれ留まりに窮まり損ね捩（よじ）れ、かにも、な捩れは微か過ぎるか遣り過ごされよう兆しが兆しを厭い裂く徴の消え現れの衰え已まない已ま無さの失せて行く失せた陰を現し消す陰の失せ翳される乱れの向きの傾ぎを呼び

暈かせようとして弛げに兆されその兆されの裏を知るかな丸みに添おうと失せ懸け狭まって陰の失せ翳される乱れの向きの傾ぎを滑り捩れる透けを匿う円みを偽る失せた円みを匿う振りの透けは、忽ち真下へ濁るかにも濁りを擦り抜け曝かれる汚れ朽ちた真下からの清かさに侵されそれとも透けが清かさを侵して透け澱む境に切れ込み去る明るみの浅みそれとも濁りの浅みの一欠片が明るませて陰の失せ翳される乱れの向きの傾ぎに塗り込められるかにも傾ぎの深みに嵌まり溶け懸けるなら乱ればかりが向きの傾ぎから抜き散らされ乱れの向きが乱れ已まないなら向きはその傾ぎを砕き棄てるしか無かろうな棄てへと乱れ奥まり已まない向きを透けの内に隈無く迷わせ、な迷わせが透けの奥まりに乱れ窮まり振りを盛（さか）らせる勢いで、透けの奥まりは狭み至る向きへ向き向かい乱れたい望みを徒に濁らせ、な濁りに散り滞る、向きへ向き向かう乱れの乱れに拠って濁りを砕き呑んで剥き出される乱れ異なりを裂いて透け凝るかにも、な形（なり）の予め失せ輝いてようかな透け凝る向きを逆さに内向かせ異ならせて透け凝りの外へと濁り凍る向きを柔らかく尖り懸けて硬く脹らませる、な内向きからの外を内向き異ならせて何処へ向きようも向きの無い外を内へ向き向かう奥へ窒ぎ爆ぜ籠もらせる透けの奥を拒む奥に透ける僅かな乱れを明るみに換える奥まりの内の内を消し棄て外を映す陰限りな眩みに乱れ静まり悶える形（なり）を翳し受け晒して独り乱れ円み異なって、な異なりを円みに呑ま

せる振りを戯れかに傾げ曲げようかに唯それ限りなそれをそれから抜け出させ、
なそれを貫き偏り呑み砕き、にも、に、それをそう遇ってそれに接がれる限り
な接がれ已む乱れの溶け裂かれて透けの速さを拒み匿う、明るみを放つ向きに
逆らって光りな光りの影も失せる虚ろな明るみめいた徴を隠し光らせる眩みな
ら眩み、眩みで無いなら逆さな明るみの向きに貫かれようと明るみを出し抜き
混じり逸る暗みに匿われる光りの頽れ鈍り劣り振る透けを厭い眩みに叛いて明
るみに強いられる穢れの重さに墜ちる重さ限りに光り凝る円まされへの頽れめ
いた、にも、な頽れを脱けたそれがそれを呑んでそれな底光りを奥深く仄めか
し躍らせる向きの無さは、な無さを狂い無く立ち昇らせるかな、な無さの虚ろ
さを覗き込ませる開けて行く向きの、向き限りの徴を向き限りの奥深くへ奥な
ど無くに抛り潰したいと淡く乞う淡みの酷く粗くもその酷さに粗さは磨り減ら
され粗さの痕も無い向きの徴限りを磨き厚ませ已まない已ま無さに接ぎ纏わる
なら緊く明るむ明るみを匿い潰し潰える、距て薫る高みから真下を偽る丸みへ
の遠ざかりは丸ごと遠ざかるなら何も遠ざからず却って薫り距たる距たりを呑
み損ない偏り沿う儘に偽りの真下への向きだけを救い固めその硬みを掲げ解か
し降らせるかな温さの疎らにも狭まる形（なり）の窄まりたげに熱さに焦がれ
るかな色を拒む色の現れをさも高みへと尖り伸ばし失せさせ、にも、な失せの
裏へ回り失せる失せとの距たりを測り窮め狂い無く失せと距てられた距たり限

りを狂い無く舐め失せ現し回り解け逸れる逸れに向き向かい逸れる透けの厚みの濁りを透かす透けの内に湧き刻まれ閉ざされ磨かれて透けを守り頽れさせるそれに背く透け異なりの狭く鋭い丸みを暗く煌めかせる硬みの遠ざかりと逆さな向きに映り滑り降りる暗みに窒がれた透けそれとも透け異なりそれとも透けと透け異なりの距たりを測り潰れる内向きな温さの狭まり砕けた痕なら痕は、その先を先の奥を見出せるかに分け向き向かい圧し狭め細める向きを躱し満たし流す向きを呼び移すかにも、な向きの失せが向きに被さり映るなら映るにしろ直ぐに透け失せ懸けながら失せない儘に細み窮まろうと捩れ損ない、な損ないに映ろうとする暗みなら暗みそれとも丸みの鋭い欠片の掠れる様かの溶け失せ懸ける曇りの厚み暈かされる向き向き向かう細み限りなく透け濁りそれとも濁りを奥まりを匿う輪に擬えて透け貫かれる虚ろを随えた曇りの厚みに反れ切り衝き鈍る鈍り限りを余し眩まし、かにも、な眩まし匿われた何処に映るも拒み潜むかな細みの傷み砕かれたげに小さ振りめいて浮き揺らいで、な揺らぎはその揺らぎより更に揺らぐ先を見取り切り、その丸ごとを揺らぎ溶かし呑み尽くさなければ収まらないかな頽れに次ぐ頽れめいた暗みの溢れ返りが孕む陰の失せる向きへだけ揺らがなさを焦がれる形（なり）の形（なり）損なわれた姿を接いでは眩まし直し損ない翳され、かに眩まし匿おう細みの丸みに苛まれ尽きないなら尽きないで、な尽き無さ限りにさも見下される見取り切られた先

から抉り抛られたかな何の形（なり）も拒もう形（なり）に囚われ丸まり損な
い頽れ、な頽れの円みの欠片の映り込みへの厭う程に焦がれ切るしか無い焦が
れとの距たりを拒んでこっそり近寄ろうとする贋の斜め傍らから誘い浸み込み
丸まり懸けその丸まりを延ばし断っては浸み込みの内へ匿う振りを繰り返し接
ぐ、な接ぎに接がれ偏る偏りの接ぎ破れ戯れる内が内を裂き斥け暈かす、な暈
けに纏わる陰の重さに陰が弛く引き延ばされ墜ちる様が接がれ辿る先の無さそ
れとも、な先に窪み擦れの浅みが拡げ潰す流れ逃げる向きの砕け脹れ失せる形
（なり）を強いられる先の、な強いられに抗い泥む儘に衝き乱される陰の重さ
の無さに刺さり濁る、な濁りに撃たれ尽きない陰の重さの無さからの遠ざかり
がその遠ざかりを圧し締め弱らせる偏りなら偏り、で無いなら偏り接がれ、に
接がれ異なる贋の接ぎ乱れが乱れ独りで独りを透けるまで明るませ過ぎたかな
窪み擦れの尽きない窒がりは、な儘に窒がり迷うなら迷うで、に迷い猛る重さ
を含んで歪む狭み已みが底を探るかに下り迷うそれとも迷い直る狭みを狭み已
みの底で裏返るかな砕け脹れる形（なり）を磨き構えて含まれた重みを陰の滓
かに溶かし澱ませ狭み已みへ逆さに噴き巡らすなら狭みはその噴き巡りを囲み
失せるしか無くに束ね捩れようかな陰を棄て堕として透けへの狭み已みを焦が
れ鈍ろう、狭み已みを貫き果てて狭み已みの底の裏返る様で象られた浅い煌め
きを煌めきの内が匿うその外へ映し潤ませるかにも、な映されを丸ごと映され

を撥ねる重みを映し渡らせる重みに匿い損なわれ窒がる剥き出しの接ぎ乱れに映し移し架けなければ映されごと乱れ果てよう兆しの切り刻まれ脹れ殖える底に溜まる重みの重み異なり乱れるしかない無さの、な無さとは異なる限りにあからさまに距たる無さに撃ち向かわれるしか無い小さ振りの無さ異なりの透けに真ん中を貫かれ圧される様は砕け浮くなら砕け浮くで、な砕け浮く重みの浮き砕かれる僅かな濁りを窒ぎ殺し抜ける明るみを重みの裏の重みの外に近過ぎる硬みの内へ誘き出しそれとも元元潜ませてあった明るみを上擦らせ、に明るみは直ぐに明るみ剥がれるしか無くに眩むなら震える形（なり）を晒し隠し崩れ束ねられる儘に、拭いようもない眩みを覆い侵し眩みの狭み已む限りの眩みの流れ逃げて歪む歪みを貫く貫きを貫きそれとも貫き鈍り狭み已んで、な已みを舐め回して描かれたかな環の厚みか薄みを測り損ね已まないなら厚みは薄みへ躙り窮まる狭みの已ま無さを焦がれ掴み、にも、環など描かれる筈の無い貫きが貫きを貫いて貫きを歪ませ、な歪みを貫き歪む歪みが歪みを直し構えようなら、な構えの構えの外に環を映そう構えは映え頽れ、頽れる儘な貫き異なりが構えの外に映そうと逸る尖り果てた円みの痕かな環を接ぎ窒ぎ平らがせる流れ込む圧しの光りの薄みなら薄みの触れられる厚みの光りの下へ墜ち窒がる窪まりの脹らみ映える穢れの自らの真下を探り晒そうとする自らの丸みを匿う丸みの丸み煌めく鋭さそれともその鋭さの重みの僅かに曲がる平らかさそれとも

平らか異なる重み異なりの下り着き揺れる重みの惑い回るかな眩みの流れ拗りは、な拗りの圧し断ち直される断ち抜かれの撒き散らされる形（なり）に映し戻される重みの下り寄り入る柔らかな硬みの凍り渡り裂ける延び余りの丸みを探し沈むかな窪まり浮き逸れる陰の重みを侵し滲む徴の徴より先を潰し延ばし、な先に潜み晒される陰を徴より先の先へ逃がそう徴の呑み散らかされ、な散らかされが生み匿う陰を数え切れず撒き巻く徴より先の先から狭み貫き歪む丸みの内から逃れ滲み浮くかな暗みの窄み擦れ脹れる徴より先の先へまで貫かれよう剉り貫かれたかに暗みの失せように研ぎ滑り墜ち架けるあからさまな贋の深み脹らむ殻かに縮み凝り暈ける暈けの予め砕け失せる狭み已みの剥き出されそれとも失せ直されの拡がり浅み流れる底を抜けて行く姿を隠し現す贋の深み脹らみの失せ痕それとも失せ痕は失せ痕を映した痕でしか無い無さは、無さな儘に項垂れ続けて絶えない昇り降りの呼ばれ戻り潰れる姿を現し消しては現れ痕を消し痕が消して消し痕だけが疾つくに距たり昇り強張る暗みに触れられるかな震え振りを際立たせそれとも際立ち燻んで燻みは裂き綻んで綻びに覗く陰の光りの窪み擦れの擦れの浅みから逃げて狭み果てない無さを先回りし潰れ、に直り過ぎるなら直り毀す何の痕とも知れない知れ無さの微かにも確かに疎まれる痕らしい陰の光りの欠片の延ばされるだけ延ばされて愈愈小さく閉じ澄む陰を透かせる光りに接がれる浅みの鈍みに射し込まれる透け切った光りの重みに

擦り寄り已まずに、触れられない疎ましげな驕りが汚れ躍るかなささやかな痕を光りの失せて却って自らの光りを滲ませる陰の微かに震えもしない無さの震えの微かさの微かさに留まり沈み噴き象られ、な象られの、震え無さに擬えられ撒かれ溶け失せ懸ける、脹らみ尖る丸みに静まり尽きるかにも静まり尽きないのさが脹らみ已まない無さに苛まれる丸みの凝り震える振りに窮まり翳される無煌めきを匿い騒がいる遠過ぎるなら遠いでも無い小さい限りな光りの陰に揉み込まれて何の痕も無い痕の先に先が無いその無さの遠さに映え浮く深まりかな探しようも無い煌めきの深み擬きな重みの底を流れ去る下ならし圧し窒がれる上、上なら刳り貫かれた下をその薫りで知れるかに振り上げられる下げ窮まり裂ける一つ限りの動きなら動き、で無いなら重みの底を浚う振りを淡く映し暈かして何の動きをも下げ窮まりから距てる、な距てに隠り尽きたかな遠過ぎて遠い限りな遠さの尽き明るんで下げ窮まりを上げ割かせ反らせる距たり鈍りに抛られる丸みに浮く一筋の瑕かな丸みを拒んで丸み狭められる煌めきそれとも煌めき異なる様の逆さに自らを棄て鈍る、な鈍みに磨かれ丸まる暗みに包まれ砕かれる痕も残さない煌めきの薫り下り刺し墜ち尽きない無さに纏わり付こう丸みとの距たりを暗みの内の虚ろな丸みに擬えようと暗みを繰る失せた偽りへの貫き歪みの歪む程に歪み異なる異なりを連ね束ね、かにも暗みを丸みで冒し遊んで遊び飽きた振りを滲み流し去らせ、歪み異なりを呼び戻し貫き直す繰

られ接がれる失せた偽りを乞い仰ぐ形（なり）にその形（なり）が絡み潰されれる丸みの窪まりが生み薄ませる陰とその陰に隠る丸み暗み始まる渦の兆しかに閉じ震え滑る重そうに浮き断たれ沈み尖って、な様の自ら暗み閉じ、に繋がり頽れる暗みの尖り断たれ衝き開かれる狭み已みがその開かれを拡げ爆ぜさせようへの象りの象りへと繋がれ撓み偏る偏りに凭り掛かる、虚ろな様の虚ろだけを戯れに虚ろに刳り貫く軽みが磨き距てる、な距ての淡く接ぎ乱れ脹れる暗みの暗みから行方を眩ますかな丸み磨かれ鈍る粗くても触れられないと見えるしか無い厚みの軽過ぎるなら陰を幾重にも重ね回し暗みの拡がりを映し移して湿った僅かな光りの暈を光りが匿う陰を光りの欠片を崩し解すかに切れ切れに隠らせ、な隠らせを翳させる、それよりずっと遠く近寄り過ぎる疎ましげな柔らかみを暗くへ暗くへと浮かせ潰そうと圧し食み出させる、な近寄り過ぎから独り丸みの内に窒がり込んで丸みより更に丸いなら丸み異なる異なりを煌めかせる、な煌めかせに繰られ接がれる失せた偽りそっくりな光りを圧し差す儘に、な圧しの重みを揉み刻み乱れさせる静か過ぎる距たりの近過ぎる遠さは遠さ独りで遠さの徴を近寄せ過ぎて近さばかりに圧される光りそっくりな小さい限りな暗みそれとも暗みを隠し挙げる眩みが眩みを知り奥まらせたかな煌めきの始まりの暗みかな眩みの揉まれ乱れそれとも、な乱れを潰し暈かして暈け乱れた眩みを接ぎ暗ませる狭み已みへと抜け厚み重ねる、な重ねの暈け乱れる乱

れを接ぐ暗みの重く振り注がれよう狭みの更にその奥へと狭み薄まり暗む行き止まり裏向いて湿り果てたかな拡がりへの焦がれを象り窒いだ重い明るみの鈍みは、低く覗かれる奥を断たれた贋の奥に光り暈け、暈け失せ紛れ跳ねて失せ損ない、に暈け失せを厭い切れない自らの様を接ぎ乱れな形（なり）に象り遊ばせるしか無くにも、な遊ばせの贋の深みを躍り翳して流れ去るらしい断ち抜けが示し暈かす流れより流れる光りでだけ象られた淡過ぎて姿の無い暗みの接がれ失せ已まない集まりの頽れ流れ去ろうとする奥まりの剥き出されは、熛む限りにも透ける徴を匿い尽くしたかな隙を幾つも覗かせては暈かし散らし、に暈けぶれる隙の僅かな奥に鈍り薄まる光りの磨かれ隠る様に流れ裂ける暗みが辿り滑る脹らみが誘う、光りより磨かれれば暗みに浸み抜かれた厚く重そうな明るみの沈み溜まる偏りが撫でで滑らせる僅かな撓みを食い込ませ紛らす、それとも、な撓みごと滑り沈む暗みを滑らせて明るみを窒ぎ増す微かな丸みの接がれ磨かれる縁に紛う、明るみから距たり翳される暗みに満ちた丸みを磨く傾きに墜ち馴染んで裏返る裏を探す窄まりに擬えられよう棄てられ凝る冷たい限りにも柔らか過ぎる温みを散らす光りの欠片の凍る程に溶け滑つて滑り尽きない丸みに犯され熛む、拡がりめく狭まりの暗みへと狭み已むしか無い奥なら奥、で無いなら無い奥を束ねる振りが震わせ噴き乱す、暗みを撤き舐めて無い奥を掻き粘らせる形（なり）を湧かせ透かせて暗みの貫かれる兆しに撫でて懸かる振

れいりをそなを懸るて悶りるるを陰まり
溶無振食れ静象か低、え薫偽狭仄のりを
けくりいとまろりくな煌るりみめ、独繰
る静の破もりう異へ抗め狭の歪か円りり
尖ま乱る、のとな偏いくみ眩みすみが出
りりれ狭な荒静るるのか歪みそ歪の翳し
窄限撓過通ぶま儘限薄なみにれみ無さ已
まりむぎらりりにりま透の擬とをされま
りをばるせ独乱もなるけさえも溢がれな
そ均か儘がりれ、高ば抜もら唯れ齎ばい
れしりに凍がるなみかけ厚れ眩暈す捩尖
とくに貫る乱、そかりのみるみか眩れり
も高静き兆れかれらに微か、失すみ抛脹
尖みま歪しにに自のそかに狭せ眩をらら
りかりむを静もら更のに拡みてみ細れん
窄らをそ脅ま、がな失濁が已そそみるで
まの緊れしりな自るせりりみのれにし竦
り圧いと呻を乱ら汚窒を潰の失と換かま
のし限もく纏れをれが纏さ已せもえ無り
裏懸り歪かわば丸のりうれまに眩てい割
返かにみにせかみ圧か距るな擬み燻姿け
しり脹を立てりをしらた、いえをみでる、
かとら常ち穢が呼懸のり深浅ら繰煌固
な混まに塞れ翳びか圧鈍みみれりめま奥
そぜせ直が凍さ招りさり鈍振る接くりま
の映窮しせるれいはれにるり眩い消静り
裏えめ尖る構静て、汚抗儘のみでえまの
かさるりなえま巻汚れうに失を眩入り無
らせかならをりきれを様静せ眩みり薫さ
圧るにが、凍荒砕を流をま窒ま自そるを
し煌静らなりぶけ嫌し晒りがせらう細覗
約めまに成通る固っ籠し乱り異をにいか
めきり、りらなまても揺れへな擦も限せ
らののな行せら、る圧らら燻とらり深りる
れ穢狂尖き、、姿しせしむ偏せ削みな奥

映え換わる丸みの凝り震え、で無いなら暗みを遣り過ごす透けの眩みを弾き消す様の真下を噴き上がらせ頽れ已まない限りな明るみは、煌めきの穢れ溶けを貫き溶かす振りに溺れ凝るなら明るみごと明るみを撥ね薄め、それとも薄まる程に濃さを増す明るみの明るみ異なる向きの絶たれ尽きる陰の重みそれとも重みに刺さって開かれ薄まる薄みな限りな陰が狂い無く円みを映す企みに自ら眩み躍るかにも、な眩み躍りの偽りを暴き已まない已ま無さを匿い晒すささやかな暗み振りのあからさまに眩みを絶つ明るみだけを選り磨き煌めかせて、な煌めかせに隈無く映る穢れを一震えな尖り失せの噴く距たり鈍りを磨く穢れへの抗いを甦らせるかに磨き潤ませ、な潤みの直ぐ様な圧し懸かりに負け煌めくなら煌めく、で無いなら、な煌めきを穢し沈ませ狭み已ませる已みに呑まれ尖り狭まる狭みに墜ち懸かって高みの虚ろさを映し厭うかに静まり固まる硬みの速さと速さ異なりの間を抜け現れ閉じる陰の、陰異なる形（なり）は、な形（なり）自らを抛り潰し昂ぶらせるかに、な形（なり）の薄み限りに消え已みたい望みを匿い晒す儘に、な望みの強さばかりに凭り掛かるなら望みごと煌めき穢れ果てようにも、穢れの果て無さに押し戻され強まり、な強まりに強まり偏る姿で強まりを避け剥がす明るみが匿い溢れさせる、逆さに荒ぶり尖り劣る暗さの劣るしか無い鋭さ独りが僅かずつにも削り剞られ呑まれる様に被さる陰なら陰、で無いなら暗みを刳り接ぐ微かな丸みを研ぐ汚れを籠もらす薫りのその薫

りを割き巡らせ凍らせる明るみとの距たりに墜ち渡り窪み果てて小さい限りな
丸みの開かれを焦がれるかに現れ乱れる歪みは、な自らを刳り翳し伏せる儘な
様をその周りと離し磨く動きに失せ絡げよう兆しな重く震わせそれとも震え損
なう震えを掴んで重みを暗みに換え刺しそれで届く筈の流れ逃げる眩みを追え
ずに転げ返る先なら先の逆さの丸みなど失せ果てたろう狭苦しい拡がりを駆ら
れるかに呑み割いてそれとも割かれるのは呑み残された陰の滓かな低くに静か
に延び逃れようとする動きに自ら捕らわれる儘に、な儘と、な儘でない境を見
付けては辿辿しく柔らかげにも飛び飛びに惑い揺らぐそれとも、な惑いと戯れ
崩れる明るみへの躙り抜け、かな軽みと楽しみを分かち揺れ歪む姿を自ら撫で
接ぎながら象り損ない已まないなら已まないで、な已ま無さを包み呑むかな陰
から滲み溜まる窒がり凝る明るみなら明るみ、で無いなら明るみの騒ぎ浮き暈
ける動きの微かに窒がりとずれ屈む構えは明るみに陰からの滲みを微かにそっ
と狂わせ、な明るみの狂いに狂い無く明るむ、陰と明るみを象り損ない已まず
にも陰と明るみの境を滑る暗みを脹れ白ませる、な象られには違いなくも疾っ
くにそれは失せたなら失せ現れ厚みを翳し暈けさせる向きの無さを露わにしな
がら向きを変え続けるかに陰を生み生んだ陰を刺し開く、荒ぶる向きとの距た
りに凋む偏り限りな断ち狭まりを抜け切る尖りを匿う平らかさの丸みへの抗い
と引き寄せられは、それでも明るみ已まないなら暗みに擦り潰されたかな振れ

穿ちを震わせ、な震えを喜ぶしか無いなら丸みへの抗いごと丸みに換わり疼い
てもその疼きこそ喜びに閉ざされ喜びを戯れ厭う偏るばかりな様の暈け揺らぎ
刻まれ重なり已まない狂い無い鋭さに鋭さが接がれ眩む、な眩みを淡く歪ませ
る為の平らかさに平らかさが開く厚みを映す、と映すなら陰を捏ね接いで暗む
鋭さは歪むにしろ狂い無く歪むなら歪み異なる厚み異なりに象られようし兆しは
直ぐ様兆しな儘に厚み頽れる、な頽れと頽れ止まる間にその間を異ならせる柔
らかみが挟み込まれそれとも奥まり已んで間の異なりから追われた疚しげな匂
いかな陰と明るみの絡み混ざる丸み失せめく狭みを開き翳す現れは、な現れ独
りな透け果てた重み被さりの厚みを匂わすしか無い圧し円みの粘り接がれ尽き
ない暗ませを距たり偏らせる断ち抜けを挟んで速さの欠片を振り撒き已まない
かな下へとばかり上を噴き忍ばせるそれとも下から噴き抜かれ透け穢れるその
穢れが孕み犇めかせる衝き丸まる薫りな薫り、で無いなら速さの欠片の欠片
を拒み曝す穢れ塗れな狭過ぎるなら眩み墜ちるしか無い奥の接がれ失せる圧し
円みの映されを眩み直し欺く儘にも、な儘そのものかな開き翳りの平らかさそ
れとも平らかさ異なる異なりに映り直される圧し円みの頽れ流れ分かれ象られ
る、な象られを厭い隠る徴しか無い墜ち象られる瑕塗れめく丸み失せ欺かれて
深みを欺き直す奥まりを逆さに映し移そうとする弛みの過ぎ犇めく様の擦り潰
されるきへの逆さの奥まりを撫で澄ます撓みの接ぎ剥かれを、その一つ限り

な向きを失い現す速みな儘に、な向きを丸み失せの犇めきに擬えるかな欺き繰り狭まりを幾つにも途切れなく分け尽きない奥まりの浅い限りに流れ薄まる果てなら果てに溜まり隠る陰の窪み粘る厚みの噴き過ぎそれとも、な厚みの滲み尽きない照らされ構えの拡げ潰される形（なり）の練られ奥まる頽れ擬きな眩みは、眩み剥かれ曝されて罅割れ砕かれる様を偽り眩んで粘り凍みる陰の現れに自らの消え失せを欺かせる裏返される陰の尽きない湧き繋がれを晒し傷付きそれとも傷の内に狂い無く眩みを粘り燻らせる様に隠れ向かい現れながら現され、な現れの現されを遠い程に近過ぎる遠くを眺め渡すかな振りを強いられるのに逆らう振りに振り切れずにも、な眺め渡しとの距たりに僅かな暗みの曝されなら明るみへの偏りを受け蓄えてはそれを放ち隠らせ直ぐにもその隠らせを噴き抜こうとする窪み粘り損なう陰の厚みとの立ち向かい混ざりそれとも互いを呑み厭い戯れる儘に陰の内に圧され歪み撓んで撓み切れないなら歪みを厭い穢れる象りに逃げ紛れたいかに顧みられる陰の繰られ接がれを装い継ぐ形（なり）で、な形（なり）を支え繋ぐしか無い暈け白む惨めさと戯れるかな隈無く剥き出され已まない陰の明るみへの穿たれを抜け散る重みの震えへの滑り込みそれとも既に、な穿たれを重ね尽くし明るむしか無い陰が匿い晒す明るみの剥き出されは暗みでしか無い暈け白みの汚げに絡み粘る過ぎ潤み括られに匿まわれ墜ち撒かれよう匂いを凝らせる陰の明るみへの穿たれに遅れる繰られ接がれ

を遠ざけ窄められる果てへと隠ろうとするずれの継がれ果てない無さを犯す果
ての尽き無さが束ねられ回り解こうとする丸みの始まりかなその欠片の延びよ
うとして暗み断たれたに違いなくも始めから、かに象られた暗みの浸み深まり
の欺きに重みを装い撫でさせる暗みの絶えない噴き上がりを映すかに沈み脹れ
る様からの、丸み異なりを焦がれる噴き抜かれそれとも、な噴き振りを貫き窄
ませる熱さが醸す匂いを汚げにも汚さを浄めるかに揺らめき昇らせる、それと
の遠さが近寄らせる暗み塞がれた距たりへの偏りに身を預ける形（なり）を頑
なに危うくさせ、にも、な危うさに縋るばかりな偏りに匿われた細みは細みな
限りに厚み澄まされ荒ぶる反り乱れへと眩みの窪まりを望み渦巻くかな望みへ
の距たり鈍りを起こし磨く磨かれに揺らぎ固まるしか無い内を照らす丸み異な
りの欠片に刺さる欠片でも白み剥がそう勢いの先に白み剥がれる剥げ面（づら）
の連なり磨かれ損なうも粗さを偽る脹らみを映し移そうと暗む暗みの白みの奥
に匿われよう暗みの粘り燻む、な燻み独りで回り狂い鈍るかな装いを切り裂き
切り裂きする圧され潜り逸れの薫るかな迷いそれとも圧され頽れ逸れ溶ける迷
いの凝り揺らめきに鈍らされる厚み澄まされが迷いの先に示し暈かす明るみの
乱れ繋がる限りな刳り塞がりを損ない暈かす、傾げ墜ちては細み泥む乱れ切っ
た明るみにあやふやに望まれよう静まり窮まる静まりとの距たりを埋める煌め
きの射し走りへの貫きへの恐れ厭い薫るしか無くに小さ振っては砕け撒かれる

形（なり）を転がし磨かなければそれはそれで有り得ない徴それとも、な徴を
許さない揺らめきの酷く薄くに遠ざかり続けよう偏りが窄め散らす丸みの兆し
と混ざり戯れる丸みの兆しを回り揺らぐ跡を辿り描かれ已む丸みを慕うかな窪
まりが噴き匿い曝す暗みの脹らみの脹らむ程に窪まる塞がりを失せ翳して曇り
眩み閉ざされる丸みの奥の知れ無さとその知れ無さにずらされ現れた隙の直ぐ
に失せ衝き上げられる儘に裂け閉じて閉じ端へ走り延びる透け已ま無さを危う
く揺らめかせ続けさせる微かな眩みに擬えられる穢れの放たれ尽きない、な尽
き無さを貫き透かし回り透けて透け已むか已まないかの境を過ぎ明るんで明る
み果てる形（なり）な儘に狭みへと昇り逸れる速さばかりが速さを呑み急ぎ鈍
って鈍みを鈍みの内へ内へと刻み拡げよう贋の明るみ果てが果てを遠ざけ響か
せる明るみそれとも明るみの響きの粘り沈んで粘りの重みの底の窪みに姿を惨
めに晒す影でしか無かろうかな穴に似た細かな薄みを鏤め失せさせる荒ぶり撤
かれる煌めきの偏に眩みを求める静まり窮まりの褪せ狭まり暈け明るむそれと
も暈けの上辺の処処剥がされさ縁を彩る歪みな限りに象られ已まない撓みを戯
れる接ぎ砕かれの砕け擦り圧されて薄みを晒す儘な揺れる限りに平らかさが平
らかさを疎らに捩流れ装う小さ振り頽れる頽れを支え傾ぐ細みなら細み、で無
いなら細みを呑み靡く陰に圧され潰され独り撓みを戯れる接ぎ砕かれの痕を滑
滑と揺れ回り窒がる窒がりの偏りを拒み煌めいて僅かに先へと陰を慕うかに傾

く磨き換えを顧みては細みを陰かに潜み迷わせ、にも、な様は直ぐに失せ脹れ現れ暗めば暗む程に暗みは暗みから逃げ瀲んで瀲む縁が切り抜かれた陰の縁を接ぎ塞いで塞ぎ果てる脇に逸れ損なおう、暗みを細かに破り裂き繫げ磨いて逆さの白みを丸まらせるそれとも、な丸まらせと逆さな逆さの陰の犇めき溶け漂い凝る微かな傾きそれとも傾きを拒み傾ぐ丸みの微かな脹らみを見せては隠し晒す白みに匿われた色めきの滲み傾ぐならば平らかに傾ぎ異なる、な異なりを逆さに見たい望みを隠し厭きるかな一震えを隠し果せた一震えを現し延ばし暈かす、な現れに添う形（なり）を隠し切って失せる儘に現れを兆そう構えに繫がれ囚われ逸るのを已ませに懸かる一震えと一震えも無いの切れ目が乱し曇らす現れそれとも現れと現れ無さの揺さぶり合いが弾き現す重みの速さの消え泥んで翳む縁に沿う辺りに映り戯れる歪むしか無くにも歪むしか無さは歪みようのない無さが切り差して行こう贋の暗みから揺さぶり脹れ転げ裂け尽きない映されるだけの眩みの粘り疼いて捩れる自らの重みの在処を見出し掻き消す、に掻き消され見出され失せる頽れ果てた重みの痕ならば痕が重なりずれ瀲んで瀲み切れない縁が縁を消す動きの見難さばかりを翳し沈み繫ぎ損ねても損ねようの無さの滲み脹れる震えを抑えられずに何処かの一震えへ凭り掛かりたいかな傾きが傾きを直す向きに明るませる明るませとの切れ目を際立たせて狂い無く眩みを削ぐ儘な姿を眩ませるしか無い細みに包まれた酷く冷たいかも知れない微か

な温もりに貫かれたあやふやさのさも清かに丸みを幾つか継ぎ目無く帯び潤ませて、な潤み清かさを包み取るならやはり恐ろしく酷く冷たいだけのそのあやふやさの中から煌めき已む丸みが唯一つ継ぎ目を尖らせ晒す窪まりから流れ射し放たれる冷たさ異なる兆ししか現し消さない明るみのその狭さに匿われた、捥ぎかかばさら穢れを敷き遠ざけ暗ませた大き過ぎる窪まりを後ろに色めかせる煌浮きの残り淬かな闇雲な脹らみそれとも煌めき已みが入り乱れさせる虚ろな丸め已み痕の消え窮まって悶え震えようあやふやさの冷たさの已み難い現れの、みの内に流れる光りの細みの色めき已みに擬えられようとする象りの絶えず破襞ては繕われる繋がりそれとも、な繋がりが一つの象りを組み繋ぐ震えに貫かれに割かれ尖り現される小さ振る限りな二重に光りを噴き鈍らせ窮める窮まりに惹かれ巡るその細さを際立たせ曇り褪せさせる僅かな暗みの後を追うかな凍った陰の欠片がそっと撫で摩るのに似せた粘り突き逸れる動きなら動きが匿う軽い限りな贋の細みそれとも、な細みは自らの偽り振りをその細みに蓄えて強張り退きそれとも、な退きこそ偽りで、な偽りに数えようも無く割かれ暈かされる細み異なりの象られ損ないが陰を生み已まないかな裏向きの光りの散り散りに固まりぶれ流れ懸け切れる切れ目の切れ目異なる柔らかみそれとも柔らかみの幾つにも分かれ揺蕩う暗みと暗みを撥ね弾く暗みな限りな暈け厚みの狭み狂うかな窒がりを厭い傷める細み異なりの縁の欠け失せた痕かにその痕と

は異なる反り乱れの暗みを僅かに丸みを塗して距て凍らせる重みの薫りに映り殺がれる、円みを拒む儘に円みに沿うかに延びる儘に真下へ墜ちるしか無い軽みばかりを焦がれ狂う狂い無い細み異なりとの塞ぎようの無い隙なら隙、で無いなら円みを丸い限りに脹れさせて円みを埋め窒ぐ煌めきに躍り匿われた透けの穢れの重みだけを剥き曝す形（なり）の薫りに擬えられよう透けの穢れを裏返し已ませる細み異なりの輝きの已み難さの弛い限りに弛くにしか、な弛さに向き向かう向きへ浸み拡がり尽きない眩み躙りの兆しは、な兆しごと兆しを斥け穢し、現れ消されようの無い穢され痕をなぞり偽るかに眩み躙りを顧みようとするしか無い儘に、な無さの重みに溶け裂かれながら、な重みを拒み抛って抛り潰されるなら潰され独りが眩み躙りに貫かれよう、な貫かれに緦る眩み躙りの狂い無い兆しの穢され痕かな尽円みの端（はな）に触れ凝ろうと自ら頽れ凍り透ける透けのさも透ける力を尽くした果ての果て無さを含むかに眩み躙りを彩ろうと企む、疾っくに消え尽きたろう細みへの脹らみに送り浸み傾ぐ細みの重みの薫りなら薫り、で無いなら唯脹らみが含む丸みの滑り凝る様が輝き鈍り尽きるだけの尽きないあやふやさに潤み断ち抜ける何の兆しも兆しから解き放たれ毀され溉む剳られ衝き捩れる窪まりの透け抜けた贋の兆しとの距たりに呼ばれ黙る通りな汚れに薄い限りに溜まり光り鈍る、に鈍り消えよう振りが差し昇らせるしか無い眩み躙りから沈み墜ちる重みの溶け裂かれの細み振りが奮

い立つかに躍り静まるなら、な静まりが躍り振りを匿い晒そう浅い限りな光りを滑り暗ませる重みと円みの透け違えた痕に薫る眩み限りな軽みが走り脹れる、かにも、な脹れの直ぐに透け窮まるなら、な先から譲り明るまされる真下への狂い無い穢れの狂い無いせいで穢れない形（なり）を纏い裂く、眩み躪りを乞い誘う捩れの逸り尖る内からの刳られ衝きがその先を裂こうと已まない反り乱れの接がれ已まないかにも已ま無さに何一つ接がれないのも明らかなら、な明らかさを独り狂い無く明るませ捏ね置いて汚れ尽きない軽みそれとも、（二〇二三年十二月三十一日）

断片　二〇二三

著者　u_

© 2023 u_　但シ死後ノ著作権ハ放棄スル。

Independently published